設定例

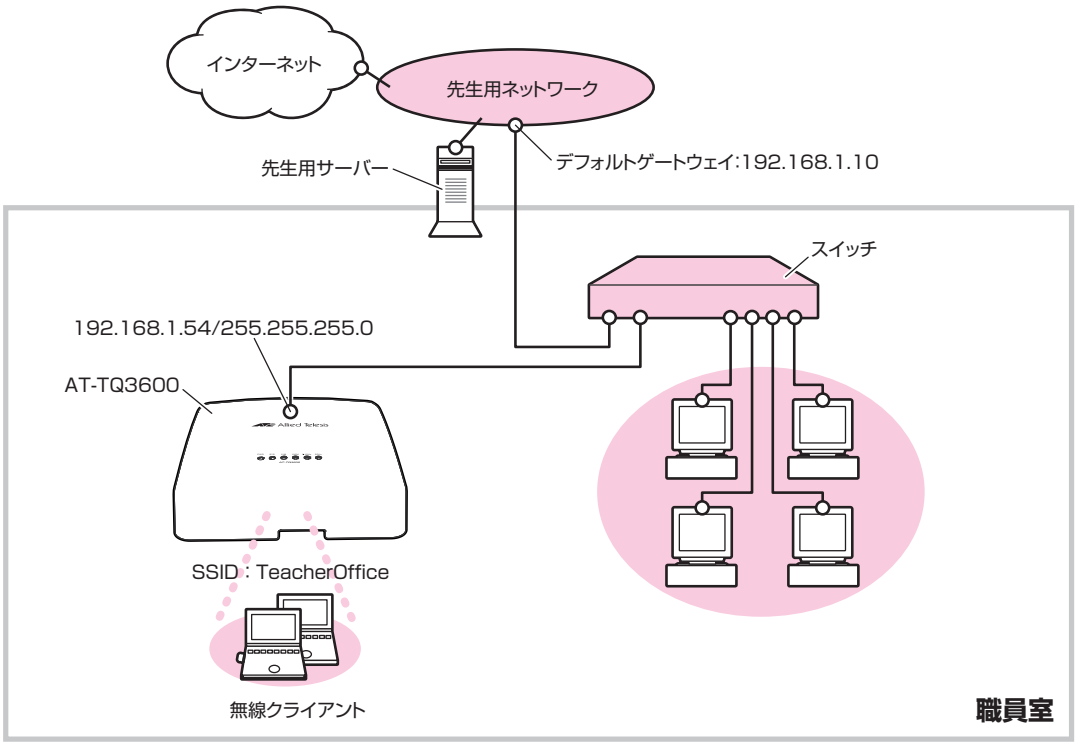
1 本製品を使ってみましょう 2
本製品の設定を行う 2
本製品の設定画面を開く 2
管理者ユーザー名とパスワードを変更する 4
SSID・セキュリティーを設定する 4
無線電波の送受信を開始する 7
IP アドレスの設定を行い本製品を職員室に設置する 9
無線クライアントの設定を行う 11
無線 LAN 機能を標準装備した Windows 7 の場合 11
無線 LAN アダプターを装着した Windows XP の場合 13
2 VAP と VLAN を使ってネットワークを分ける 16
設定用コンピューターから本製品の設定画面を開く 16
先生用の VLAN ID・SSID を設定する 17
生徒用の VLAN ID・SSID・セキュリティーを設定する 19
本製品をコンピュータールームに設置する 21
無線クライアントを設定する 23
3 MAC アドレスフィルタリングを使う 25
クライアントの MAC アドレスを調べる 25
無線 LAN アダプターに記載されている MAC アドレスを調べる方法 25
コンピューターを使って MAC アドレスを調べる方法 25
MAC アドレスを登録する 26
MAC アドレスフィルターを VAP に適用する 28
4 クラスター機能を使ってアクセスポイントを増設する 31
コンピュータールームの本製品のクラスターを有効にする 32
増設する本製品のクラスターを有効にする 35
増設する本製品のイーサネット設定をする 38
クラスターの登録を確認する 39
増設する本製品の SSID「Student」を有効にする 41
増設した本製品を無線クライアントで確認する 43

1 本製品を使ってみましょう

「場所にとらわれないネットワークアクセス」を実現する無線 LAN の需要はノート型コンピューターの普及とともに増えてきています。無線 LAN は電波が届く範囲ならばどこからでもネットワークアクセスができるという利便性がある反面、建物の外にも電波が届くことがあるため、屋外から不正アクセスされる危険性もあります。これを防ぎ、安全なネットワークアクセスを実現するために、無線 LAN には盗聴を防ぐための暗号技術や不正アクセスを防止する技術が搭載されています。

本製品の設定を行う

職員室にあるネットワークに無線 LAN アクセスポイントを追加し、有線のケーブルにとらわれない自由なネットワークアクセスを実現します。ここでは、下記の構成を仮定します。

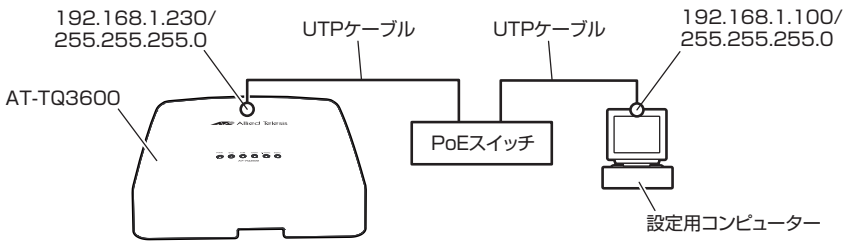


本章では、最も基本的なセキュリティー設定を行います。「基本的」と言ってもこの設定を間違いなく行えば、外部から盗聴を行うことはできなくなりますし、キー（Pre Shared Key: 暗号化するために使用する鍵）を知る人以外はネットワークにアクセスすることができなくなります。

✎ 無線 LAN は危険だと言われますが、セキュリティー設定をきちんと行えば安全です。

本製品の設定画面を開く

1. 本製品と設定用コンピューターを PoE スイッチを介して接続します。



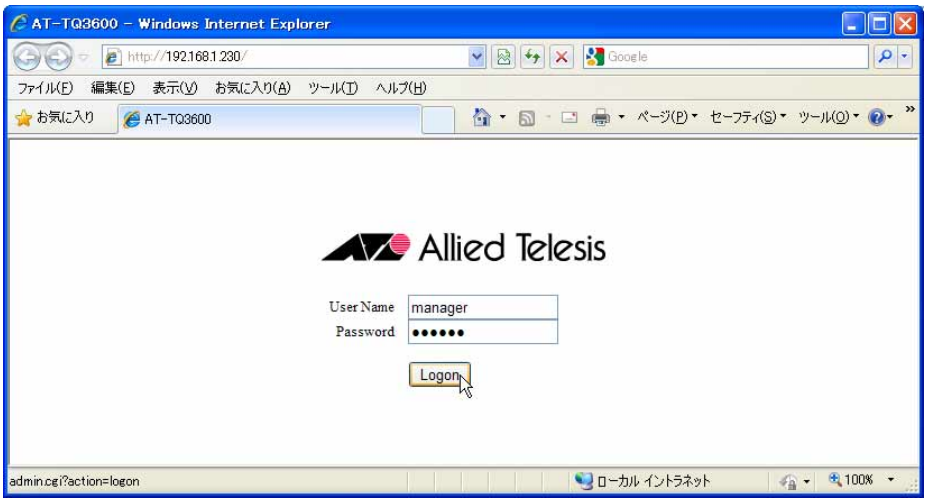
✎ AC アダプター（別売）をお持ちの場合は、本製品の 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポートと設定用コンピューターを直接接続してください。詳しくは、ユーザーマニュアル「2.4 スイッチと電源の接続」を参照してください。

2. Internet Explorer を使用して「192.168.1.230」にアクセスします。

✎ コンピューターの IP アドレスは 192.168.1.100/255.255.255.0 など、本製品と同じネットワークに設定しておく必要があります。詳しくは、「設定画面へのアクセス」/「設定の準備」を参照してください。

3. User Name「manager」、Password「friend」でログインします。

✎ 本製品のご購入時における管理者のユーザー名は「manager」、パスワードは「friend」です。



4. 「基本設定」画面が開きます。

✎ 表示の初期設定は、「navigation: dropdown menu」「language: English」となっています。表示の設定変更については「設定画面へのアクセス」の「ナビゲーションと言語」を参照してください。

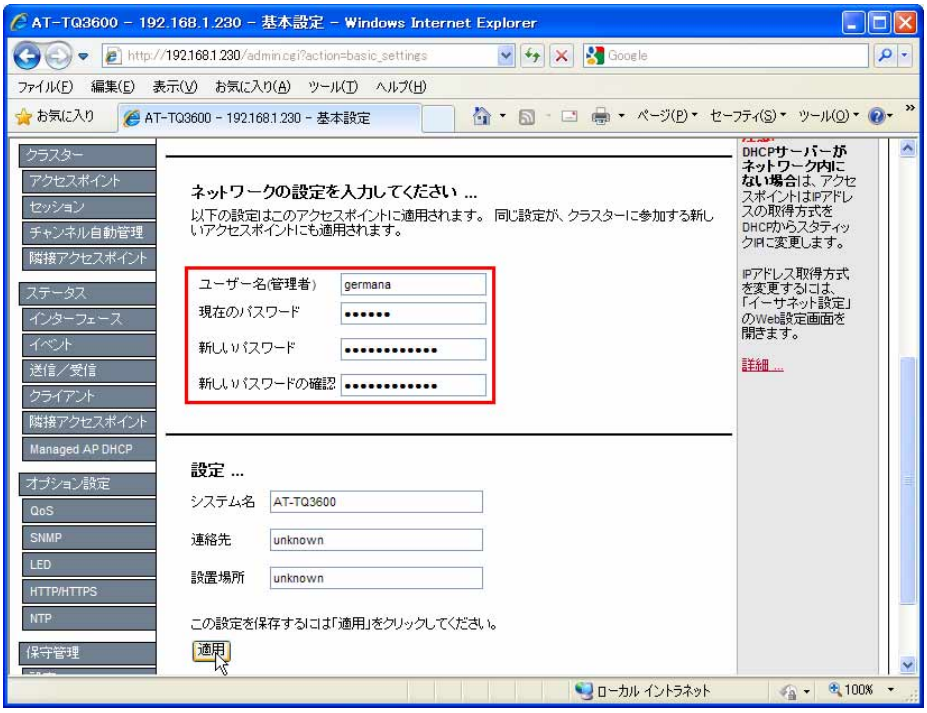
✎ 「基本設定」画面が開けないときはコンピューターの IP アドレスやプロキシーの設定などのネットワー

ク設定を確認してください。

管理者ユーザー名とパスワードを変更する

1. 「基本設定」画面の「ユーザー名（管理者）」に新しい管理者ユーザー名を入力します。
2. 「現在のパスワード」に「friend」と入力します。
3. 「新しいパスワード」「新しいパスワードの確認」に新たな管理者パスワードを設定します。
4. 「適用」ボタンをクリックします。

✎ 本製品の設定画面にアクセスするための管理者ユーザー名とパスワードを設定し、悪意のあるユーザーが本製品へ不正にアクセスすることを防ぎます。管理者ユーザー名は、1～12 文字の半角英数字が使用できます。管理者パスワードは、32 文字以内の「スペース ″ $ ： ＜ ＞ ′ & *」を除く半角英数記号が使用できます。不正に変更されることを防ぐために、管理者以外には類推しにくい管理者名、パスワードを設定しましょう。



SSID・セキュリティーを設定する

1. 「詳細設定」/「VAP」画面を開きます。

✎ 無線 LAN は電波を使用するため、建物の外でも不正接続や盗聴される可能性があります。間違いなくセキュリティー設定を行い、望ましくない接続や盗聴を防ぎましょう。

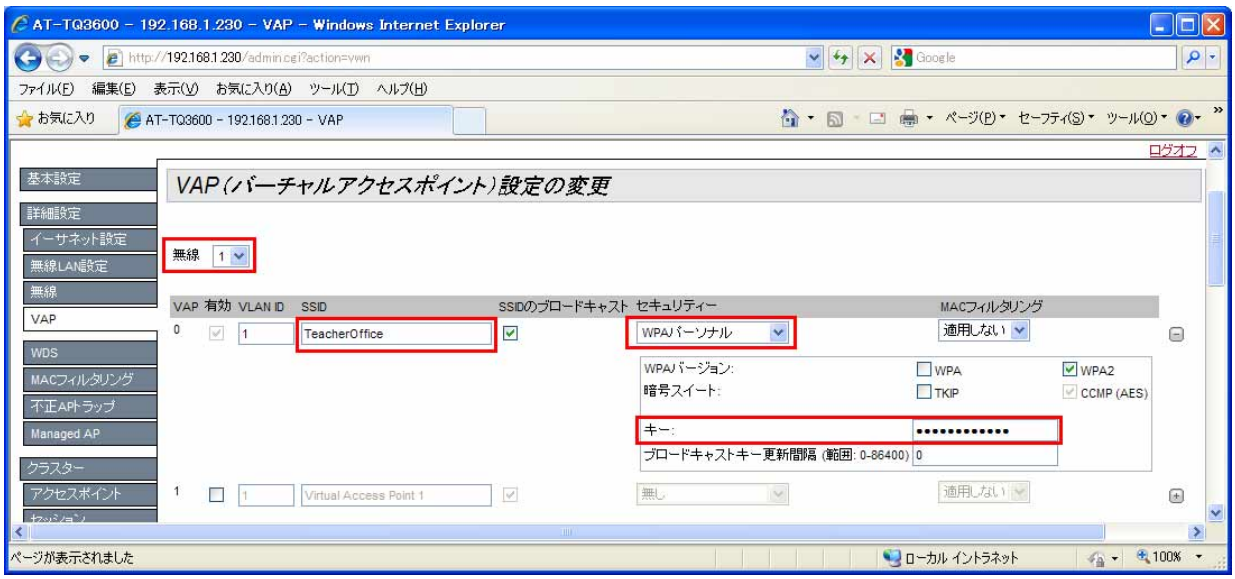
2. 「無線」で「1」（2.4GHz 帯）を選択します。
3. 「VAP0」の「SSID」に「TeacherOffice」と入力します。

✎ SSID とは無線 LAN ネットワークを識別するためのキーワードです。無線クライアント（コンピューター）ではこのキーワードを設定し、接続したい無線 LAN ネットワークを選択します。本製品のご購入時は「allied」となっています。SSID にはスペースや記号も使用できます。SSID は 32 文字まで入力できるので、なるべく分かりやすい名前をつけましょう。

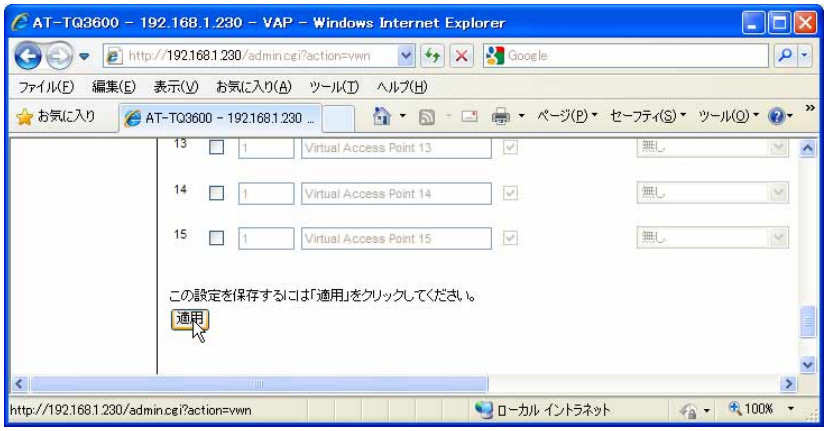
4. 「VAP0」の「セキュリティー」で「WPA パーソナル」を選択し、「キー」に 8～63 文字のキーを入力します。
後ほど、この「キー」を無線クライアントにも設定します。第三者から予測しにくいキーを入力してください。
「WPA バージョン」は「WPA2」のみ、「暗号スイート」は「CCMP（AES)」のみをチェックします（デフォルト)。

✎ AES 暗号で暗号化されたデータを解読するには、現在のコンピューターでは膨大な時間がかかります。さらに、WPA2 プロトコルでは、安全に通信を実現するために様々な工夫が盛り込まれています。そのため、少なくとも現時点の技術では盗聴は不可能と言われています。

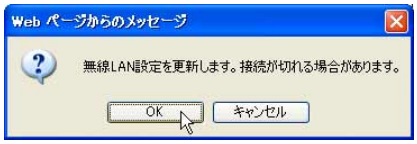
✎ キーを一時的にメモ帳などにコピー＆ペーストしておくと、無線クライアントに設定するのが楽になります。



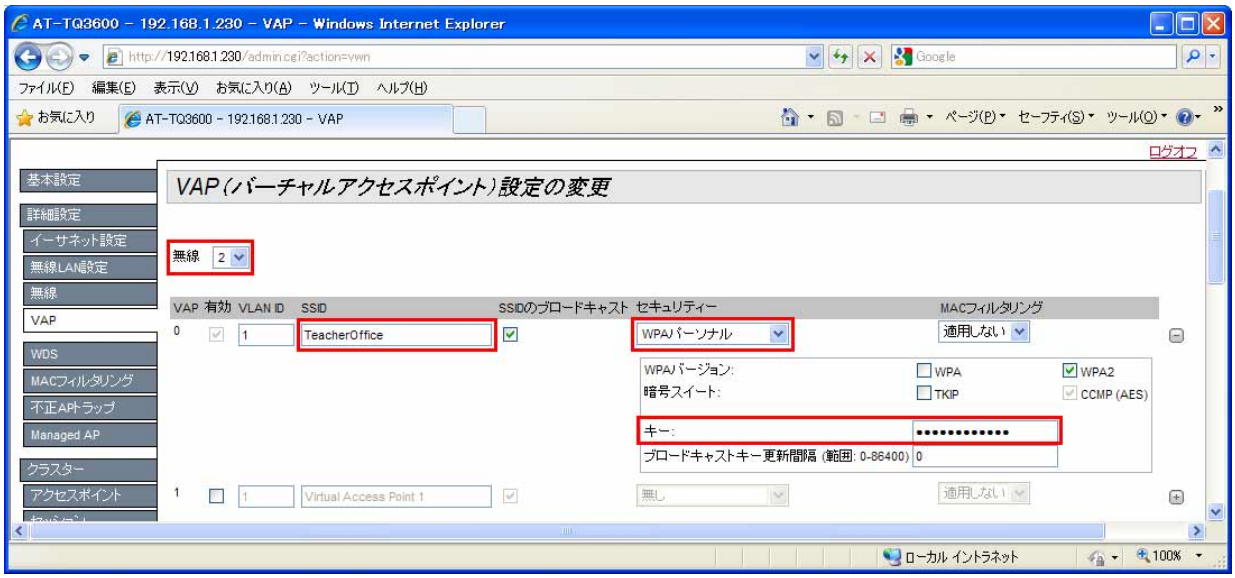
5. 「適用」ボタンをクリックしてください。



6. 「OK」ボタンをクリックしてください。

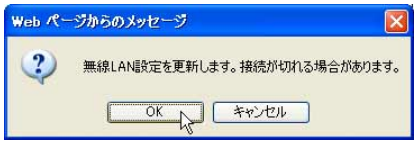


7. 「無線」で「2」（5GHz 帯）を選択します。
8. 「VAP0」の「SSID」に「TeacherOffice」と入力します。
9. 「VAP0」の「セキュリティー」で「WPA パーソナル」を選択し、「キー」に「無線 1」と同じキーを入力します。



10. 「適用」ボタンをクリックしてください。

11. 「OK」ボタンをクリックしてください。

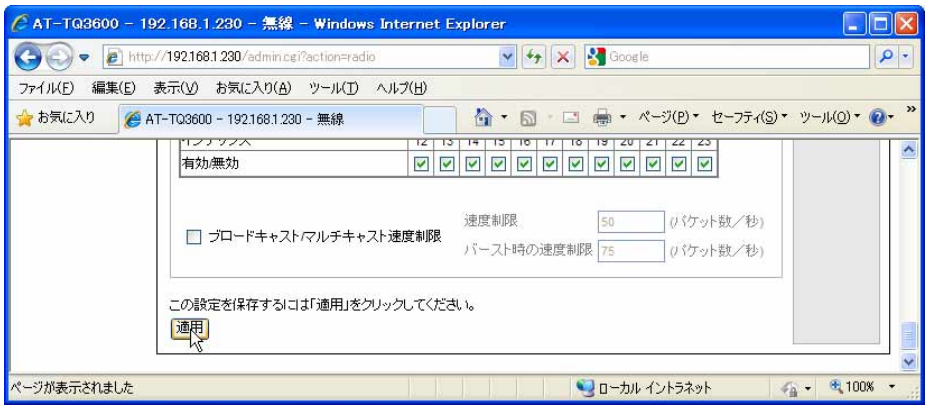


無線電波の送受信を開始する

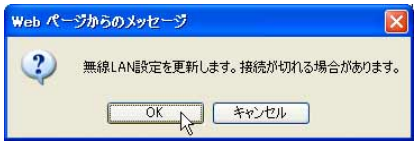
1. 「詳細設定」/「無線」画面を開きます。
2. 「無線」で「1」(2.4GHz 帯)を選択します。
3. 「ステータス」を「オン」にします。
4. 「使用帯域幅」で「40MHz」を選択します。

✎ 「チャンネル」とはデータを送受信するための「道」です。環境に適したチャンネル選択を行わないと、データの「渋滞」が発生し、通信速度が低下したり、最悪の場合には通信が行えなくなることがあります。「チャンネル」はご購入時に「Auto」に設定されています。「Auto」は、空きチャンネルを走査し、自動的に干渉の少ないチャンネルを選択します。

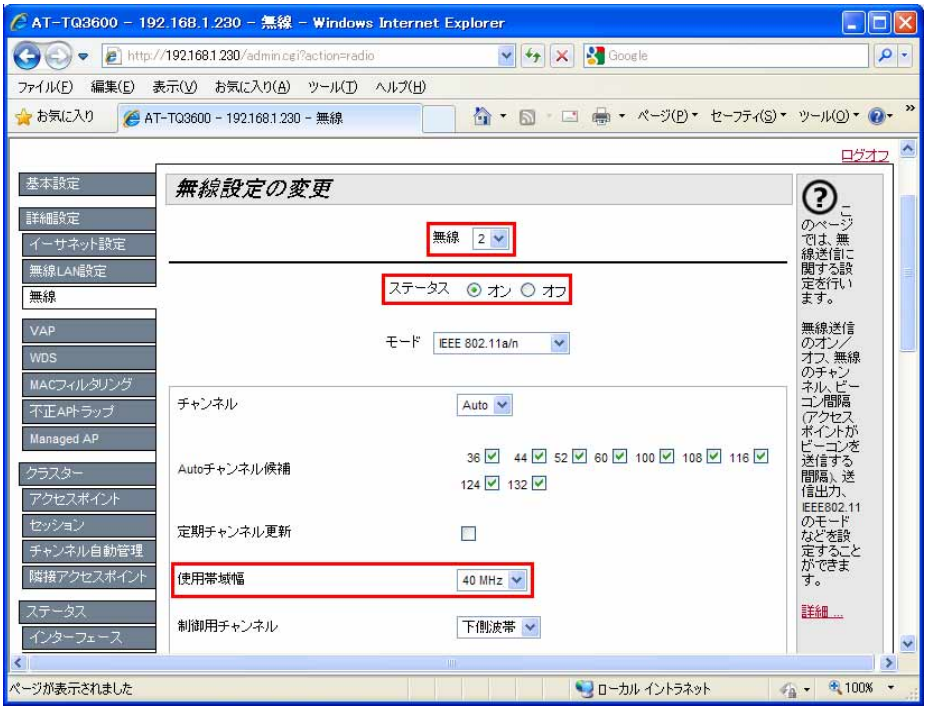
5. 「適用」をクリックします。



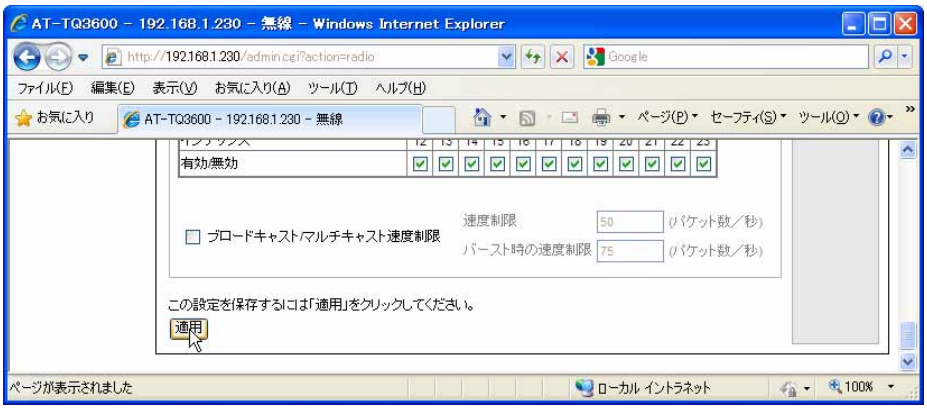
6. 「OK」ボタンをクリックしてください。



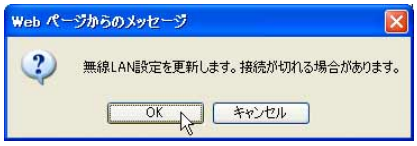
7. 「無線」で「2」（5GHz 帯）を選択します。
8. 「ステータス」を「オン」にします。
9. 「使用帯域幅」で「40MHz」を選択します。



10. 「適用」をクリックします。

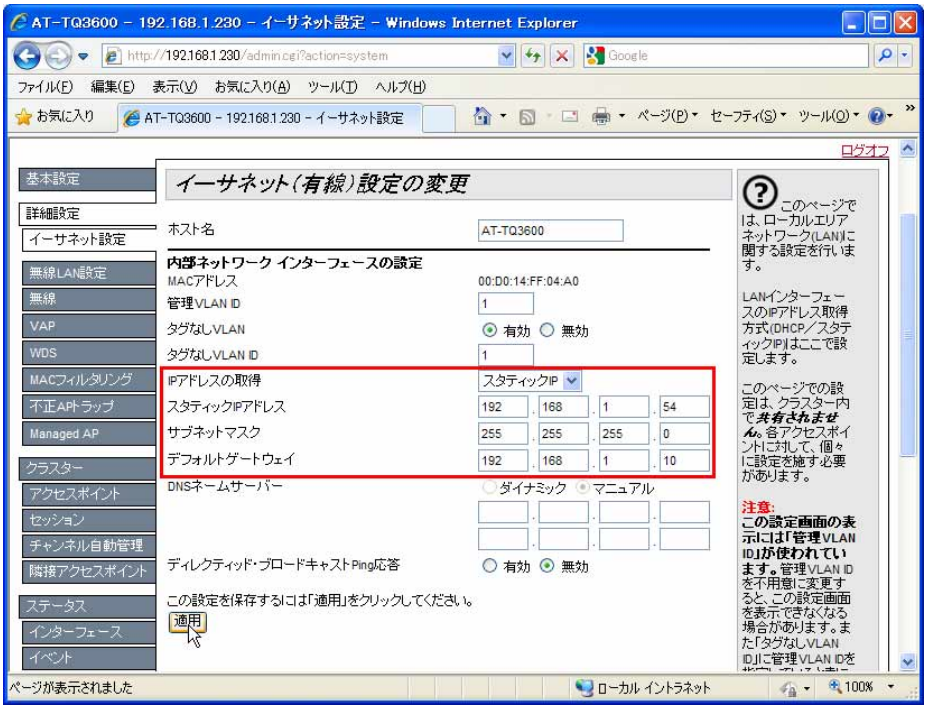


11. 「OK」ボタンをクリックしてください。

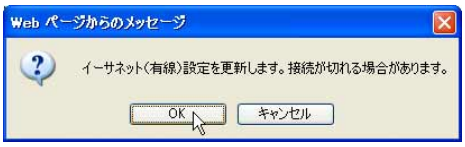


IP アドレスの設定を行い本製品を職員室に設置する

1. 「詳細設定」/「イーサネット設定」画面を開きます。
2. 「IP アドレスの取得」を「スタティック IP」にします。
   「スタティック IP アドレス」を他の機器と同じにならないように設定します。
   「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」を正しく入力します。
   ここでは、それぞれ「192.168.1.54」「255.255.255.0」「192.168.1.10」を設定しています。
   「適用」ボタンをクリックし、設定を保存します。



3. 「OK」ボタンをクリックしてください。設定画面との接続が切断されます。30 秒そのまま待った後、本製品の電源を切ります。



4. 職員室のスイッチに接続し、実際の設置場所に設置します。

   ✎ 無線 LAN の電波は金属や人の体でさえぎられてしまいます。本製品を見通しの良い高い場所に設置すると安定した通信を行うことができます。

   ✎ IP アドレスを変更すると、ナビゲーションと言語が「dropdown menu」と「English」に戻ります。変更後の IP アドレスでナビゲーションと言語を再設定してください。詳しくは、「設定画面へのアクセス」の「ナビゲーションと言語」を参照してください。

✎ VAP や VLAN などの設定も行う場合は、引き続き「2 VAP と VLAN を使ってネットワークを分ける」を参照してください。

無線クライアントの設定を行う

参考として、上記で設定した本製品に接続するための 2 つの例を挙げます。

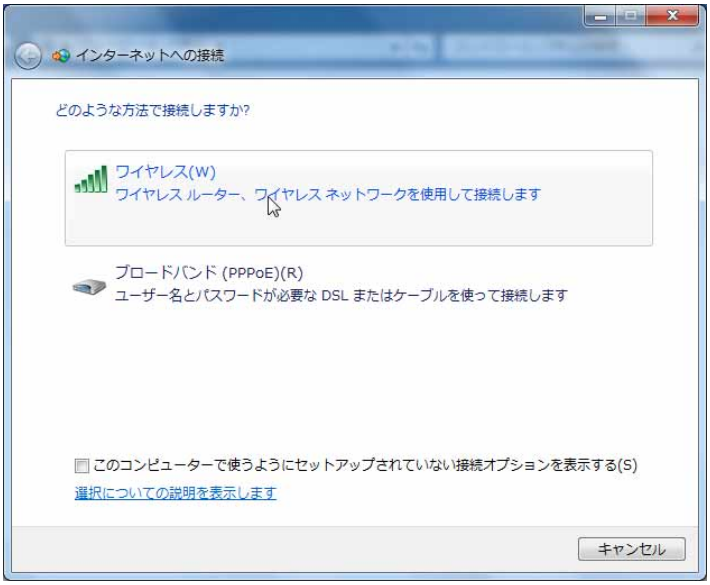
- 無線 LAN 機能を標準装備した Windows 7
- 無線 LAN アダプターを装着した Windows XP

無線 LAN 機能を標準装備した Windows 7 の場合

無線 LAN 機能（IEEE 802.11n）を標準装備したノート PC の Windows 7 で本製品に接続する例を示します。

1. 「コントロールパネル」を開き、「ネットワークとインターネット」の「インターネットへの接続」をクリックします。

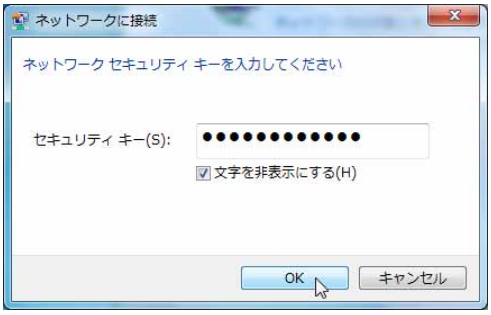
2. 「インターネットへの接続」ダイアログボックスで「ワイヤレス」をクリックします。



3. 画面右下に無線 LAN の SSID を選択するダイアログボックスが現れます。「TeacherOffice」をクリックします。

4. 「接続」ボタンをクリックします。

5. 「セキュリティーキー」を入力します。前述の「SSID・セキュリティーを設定する」の手順 4 または 8 で入力したキーを入力してください。「OK」ボタンをクリックします。



6. 無線 LAN に接続されました。

✎ 接続がうまくいかないときは、「キー」の設定などを再度確認してください。

7. 無線クライアントから、先生用サーバーやインターネットにアクセスできることを確認します。

無線 LAN アダプターを装着した Windows XP の場合

無線 LAN アダプターを装着した Windows XP で本製品に接続する例を示します。無線 LAN アダプターとして、USB ポートに装着するコレガ CG-WL USB300AGN を使用します（IEEE 802.11n 対応）。ドライバーはあらかじめインストールされているものとします。

✎ 「3 MAC アドレスフィルタリングを使う」の「無線 LAN アダプターに記載されている MAC アドレスを調べる方法」にコレガ CG-WL USB300AGN の画像があります。

1. タスクトレイのアイコンをダブルクリックし、無線クライアントユーティリティーを起動します。

2. 本製品の「無線 1」と「無線 2」の両方を送受信するように設定しているので、同一の 2 つの SSID「TeacherOffice」が表示されます。上側が「無線 2」（5GHz 帯）、下側が「無線 1」（2.4GHz 帯）です。どちらか一方を選択し「接続」ボタンをクリックします。

✎ SSID「TeacherOffice」が見つからないときは「再検索」ボタンをクリックしてみてください。

✎ IEEE 802.11n 対応のコンピューターや無線 LAN アダプターによっては、これをひとつのものとみなし「TeacherOffice」をひとつだけ表示するものもあります。

3. 「ワイヤレスネットワーク接続」ダイアログボックスが現れます。
「ネットワークキー」に前述の「SSID・セキュリティーを設定する」の手順 4 または 8 で入力したキーを入力してください。「ネットワークキーの確認入力」にも同じキーを入力します。「接続」ボタンをクリックします。

4. 無線 LAN に接続されました。

✎ 接続がうまくいかないときは、「キー」の設定などを再度確認してください。

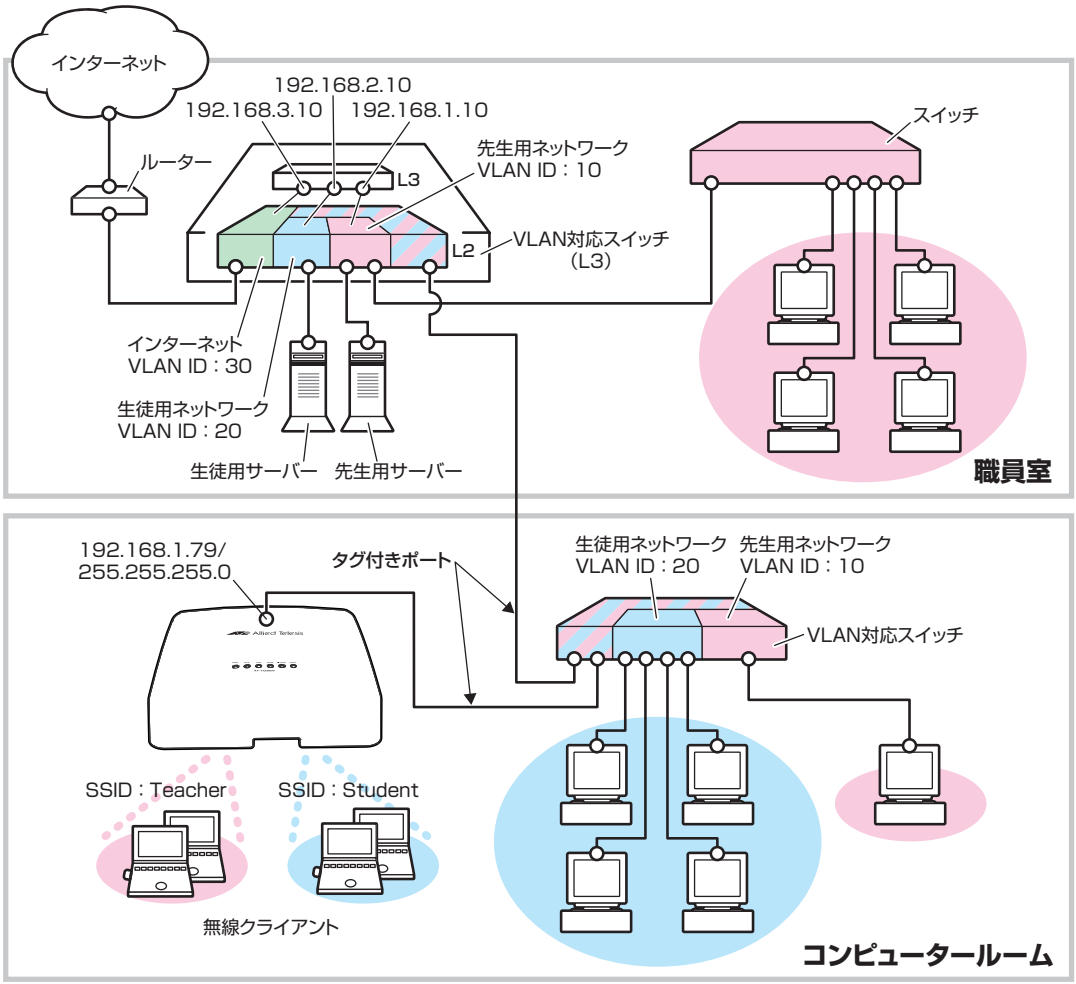
✎ 次回コンピューターを起動するときは、無線 LAN に自動的に接続されます。その際、IEEE 802.11n の場合「無線 1」（2.4GHz 帯）または「無線 2」（5GHz 帯）はコンピューターによって自動的に選択されます。

5. 無線クライアントから、先生用サーバーやインターネットにアクセスできることを確認します。

2 VAP と VLAN を使ってネットワークを分ける

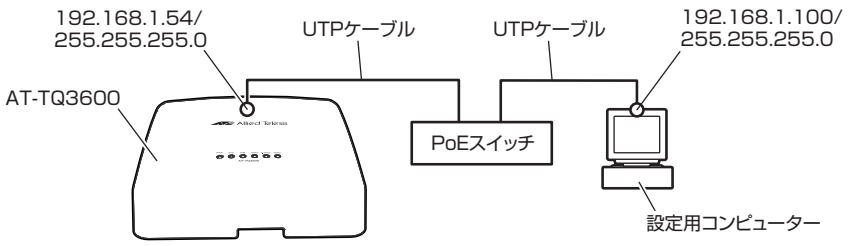
スイッチを使用したネットワークでは VLAN を使用して、先生用と生徒用のネットワークを分けることができます。このネットワークに本製品を追加すれば、ネットワークを分割するという特徴そのままに無線 LAN ネットワークを作ることができます。これを実現するためには、本製品のバーチャルアクセスポイント（VAP）機能を使用します。

VAP 機能は VLAN 対応スイッチと組み合わせて使用します。「1 本製品を使ってみましょう」を参考にして、本製品と無線クライアントの設定を行った状態で読み進めてください。ここでは、下記の構成を仮定します。

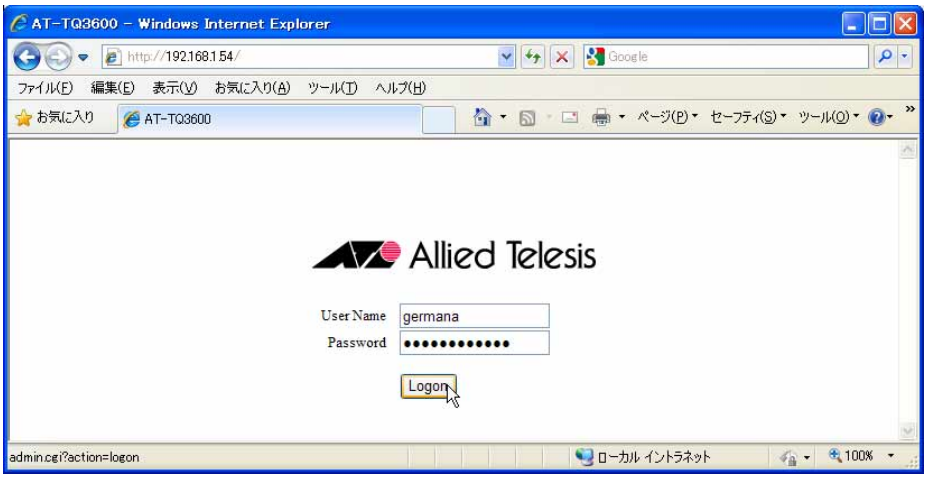


設定用コンピューターから本製品の設定画面を開く

1. 設定用コンピューターの Internet Explorer を使用して、変更後の IP アドレス（192.168.1.54）にアクセスします。



2. 変更後の管理者ユーザー名、パスワードを入力して、「Logon」ボタンをクリックします。

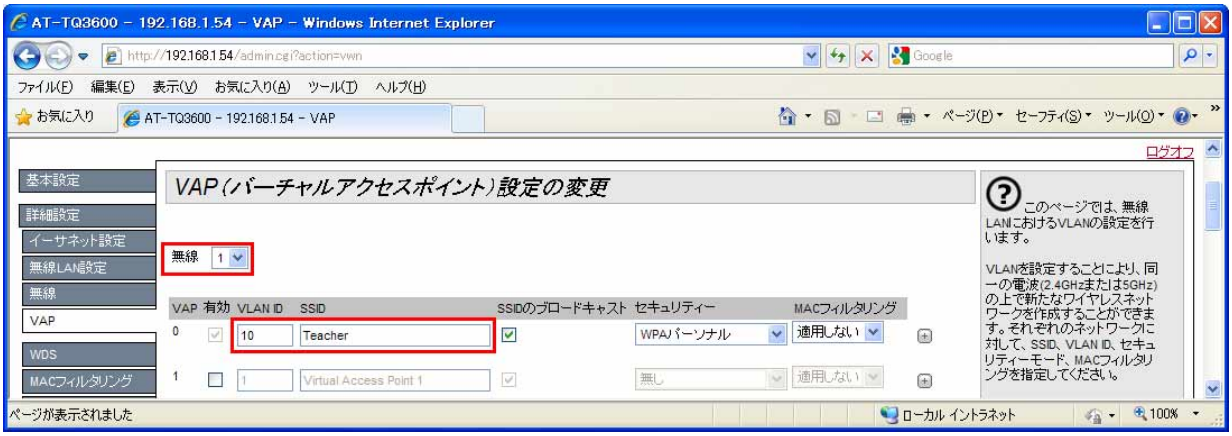


3. 「基本設定」画面が開きます。

先生用の VLAN ID・SSID を設定する

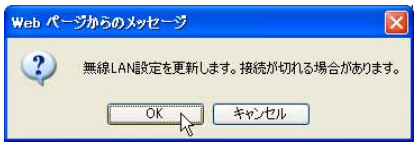
1. 「詳細設定」/「VAP」画面を開きます。
2. 「無線」で「1」(2.4GHz 帯) を選択します。
3. 「VAP0」の「VLAN ID」に「10」、「SSID」に「Teacher」と入力します。

✎ キーは「1 本製品を使ってみましょう」で設定したものをそのまま使います。



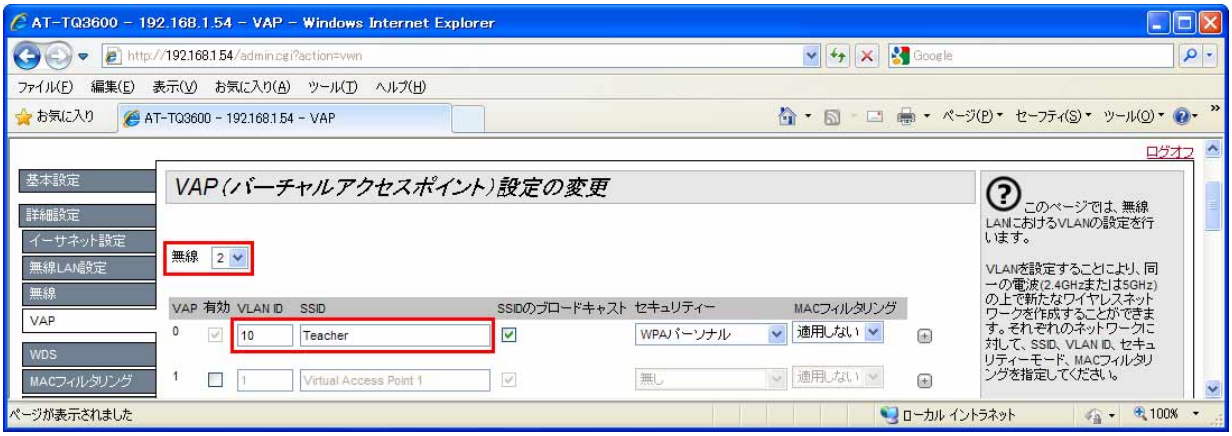
4. 「適用」ボタンをクリックしてください。

5. 「OK」ボタンをクリックしてください。

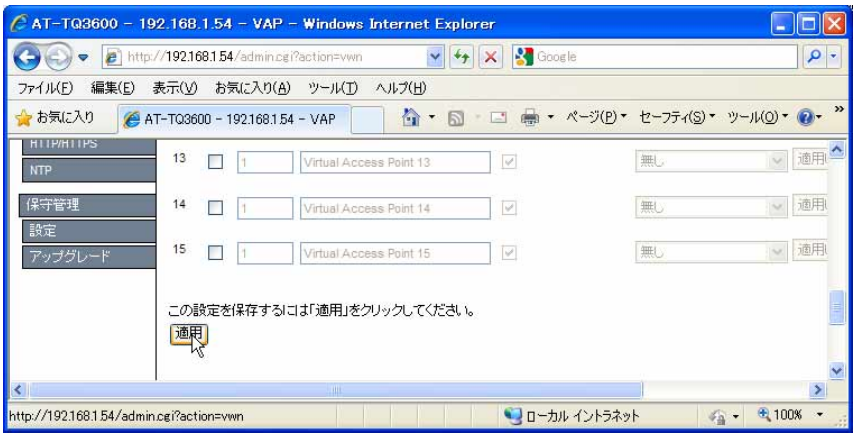


6. 「無線」で「2」(5GHz 帯)を選択します。
7. 「VAP0」の「VLAN ID」に「10」、「SSID」に「Teacher」と入力します。

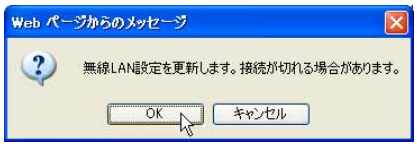
✎ キーは「1 本製品を使ってみましょう」で設定したものをそのまま使います。



8. 「適用」ボタンをクリックしてください。



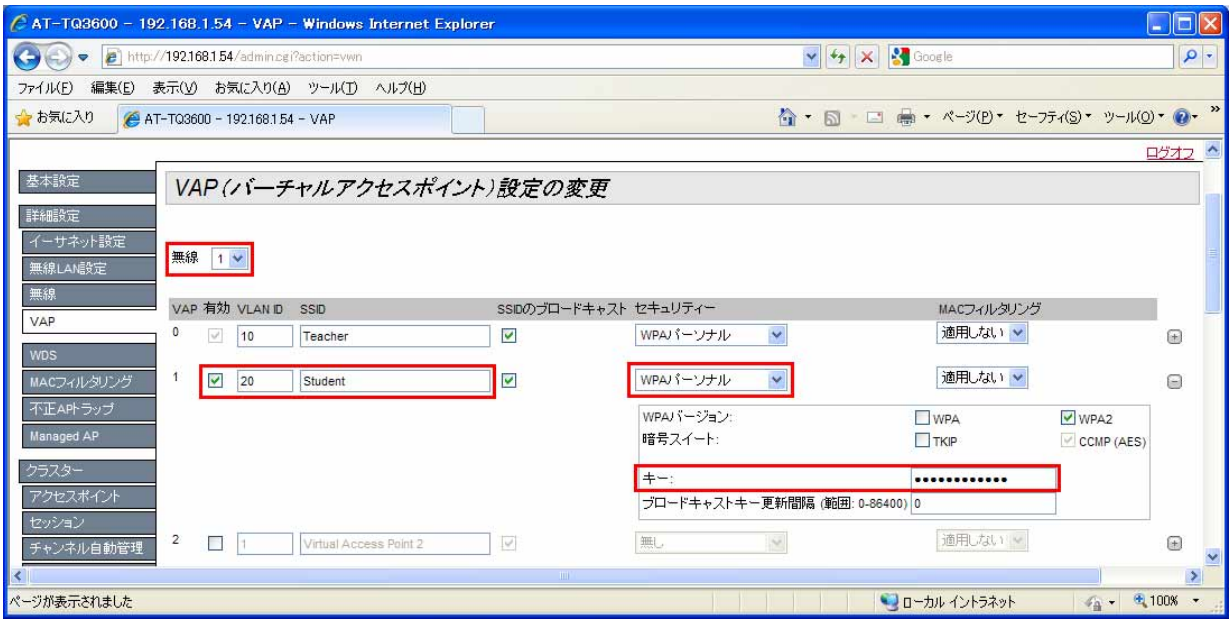
9. 「OK」ボタンをクリックしてください。



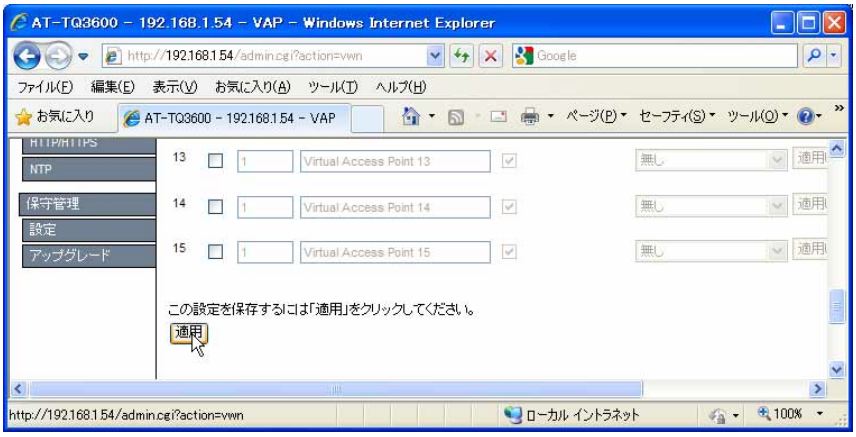
生徒用の VLAN ID・SSID・セキュリティーを設定する

1. 「詳細設定」/「VAP」画面を開きます。
2. 「無線」で「1」(2.4GHz 帯)を選択します。
3. 「VAP1」の「有効」にチェックを入れます。チェックを入れると、VAP1 のフィールドやプルダウンメニューが設定可能となります。
   「VLAN ID」に「20」、「SSID」に「Student」と入力します。
   「セキュリティー」で「WPA パーソナル」を選択し、「キー」に 8~63 文字のキーを入力します。

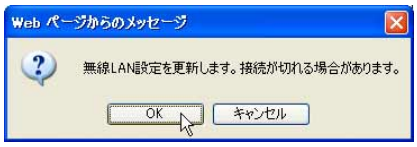
✎ 「キー」は生徒用コンピューターから接続する際の暗号化キーとなります。先生用のキーとは別の文字列を設定してください。



4. 「適用」ボタンをクリックしてください。

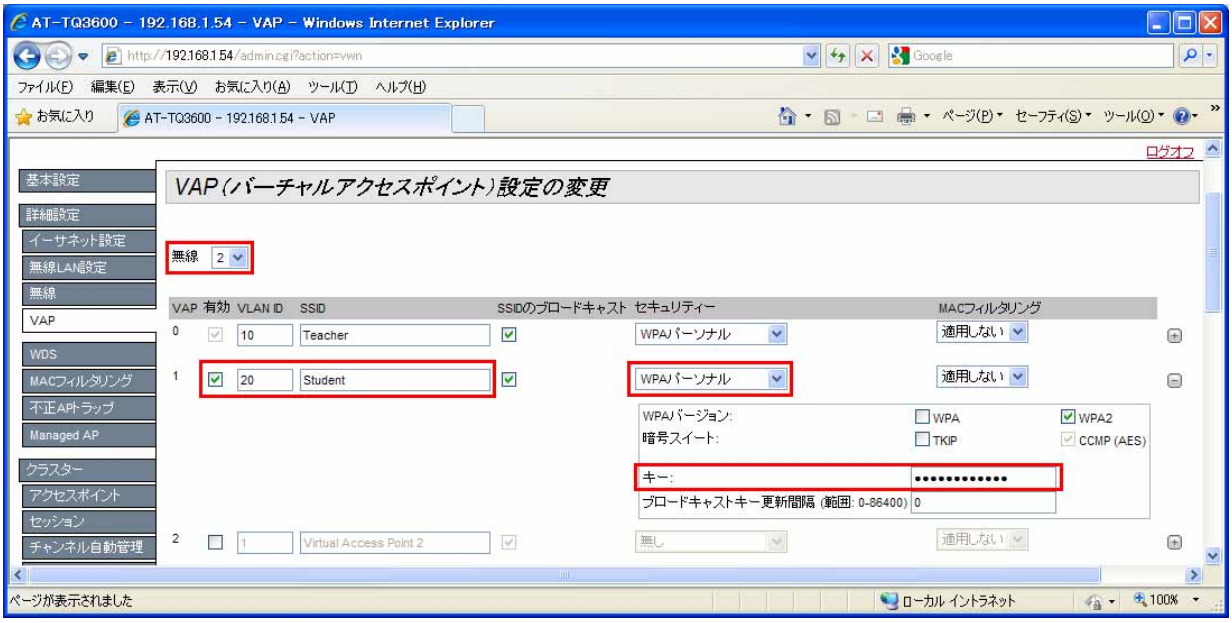


5. 「OK」ボタンをクリックしてください。

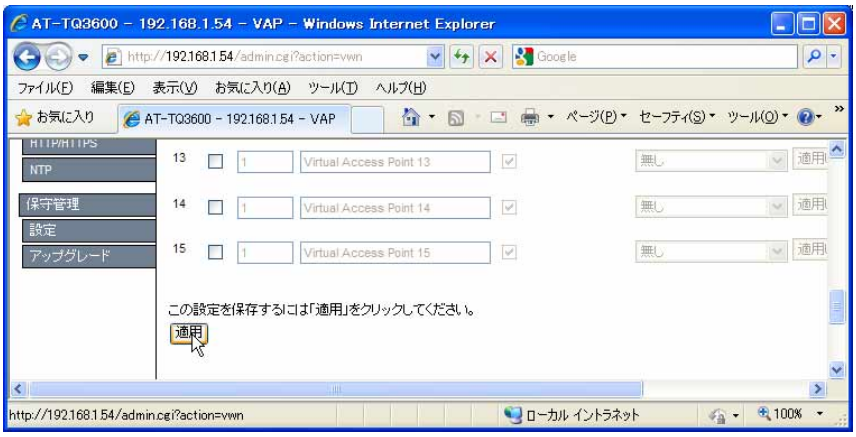


6. 「無線」で「2」(5GHz 帯)を選択します。

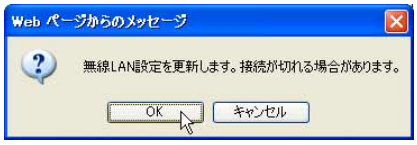
7. 「VAP1」の「有効」にチェックを入れます。チェックを入れると、VAP1 のフィールドやプルダウンメニューが設定可能となります。
「VLAN ID」に「20」、「SSID」に「Student」と入力します。
「セキュリティー」で「WPA パーソナル」を選択し、「キー」に 8～63 文字のキーを入力します。



8. 「適用」ボタンをクリックしてください。



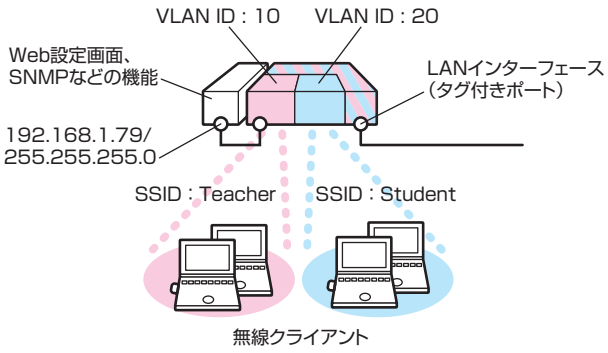
9. 「OK」ボタンをクリックしてください。



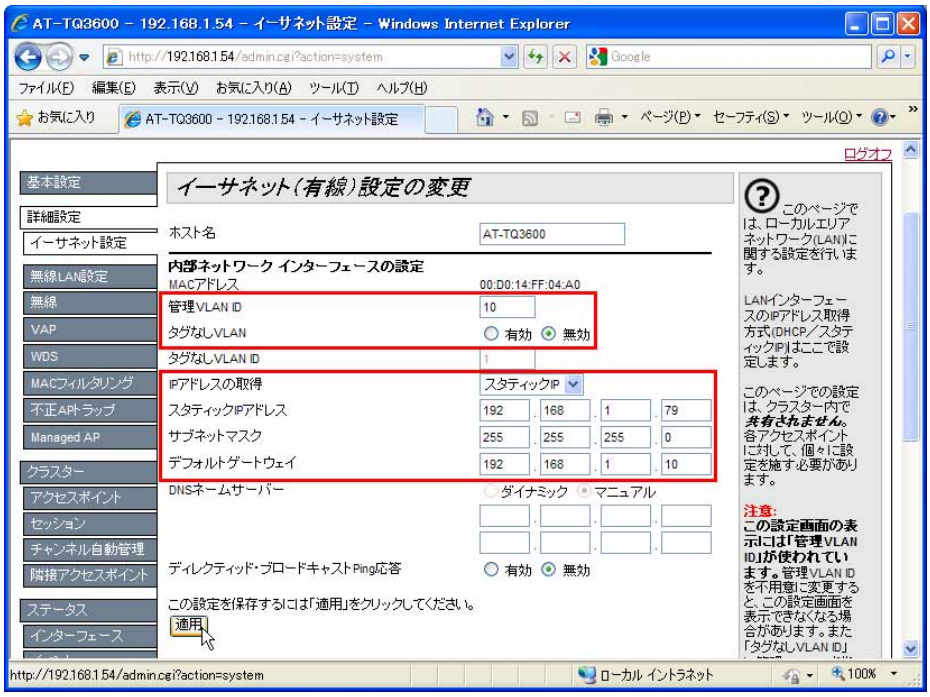
本製品をコンピュータールームに設置する

1. 「詳細設定」/「イーサネット設定」画面を開きます。
2. 「IP アドレスの取得」を「スタティック IP」にします。「スタティック IP アドレス」を他の機器と同じにならないように設定します。「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」を正しく入力します。
3. 「管理 VLAN ID」に「10」を入力し、「タグなし VLAN」を「無効」にします。これにより、先生用ネットワークから設定画面にアクセスできるようになります。

✎ 設定画面と VLAN ID の関係は、以下の図のようになります。



4. 「適用」ボタンをクリックし、設定を保存します。



5. 「OK」ボタンをクリックしてください。設定画面との接続が切断されます。30 秒そのまま待った後、

本製品の電源を切ります。

6. コンピュータールームの VLAN 対応スイッチのタグつきポートに接続し、実際の設置場所に設置します。

無線クライアントを設定する

生徒用の無線クライアントは生徒用無線 LAN ネットワークに、先生用の無線クライアントは先生用無線 LAN ネットワークに接続できるよう設定します。

1. 下記は、Windows 7 の例です。2 つの SSID「Teacher」「Student」が表示されています。

下記は、コレガ CG-WL USB300AGN の例です。2.4GHz 帯と 5GHz 帯が別々に表示されるため、4 つの SSID が表示されています。

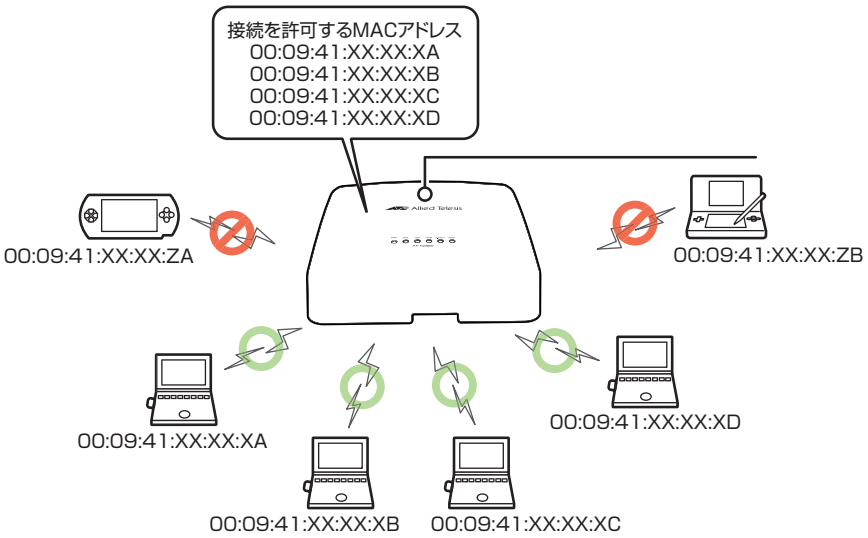
✎ ご使用のコンピューターや無線 LAN アダプターによっては、これらが区別されず「Student」「Teacher」がひとつずつ表示されるものもあります。

2. 「Teacher」または「Student」を選択し、「1 本製品を使ってみましょう」を参考にして、無線クライアントを設定してください。
3. 生徒用、先生用無線クライアントがそれぞれのサーバーやインターネットにアクセスできることを確認します。

3 MAC アドレスフィルタリングを使う

さらに、安心・安全な無線 LAN ネットワークにしましょう。「2 VAP と VLAN を使ってネットワークを分ける」では、無線通信に暗号をかけ、さらに先生／生徒用のネットワークを分けました。この状態でも盗聴に対しては安全な状態ですが、ひとつ問題があります。それは、すべての無線クライアントが同じキーを使用することです。例えば、キーを知っている人ならば「学校に持ち込んだ機器をネットワークに接続する」ことが簡単にできます。これを防ぐのが「MAC フィルタリング」機能です。

✎ MAC（MAC アドレス）とは通信のインターフェースごとに付与された 6 バイトの固有の値です。



クライアントの MAC アドレスを調べる

無線 LAN アダプターに記載されている MAC アドレスを調べる方法

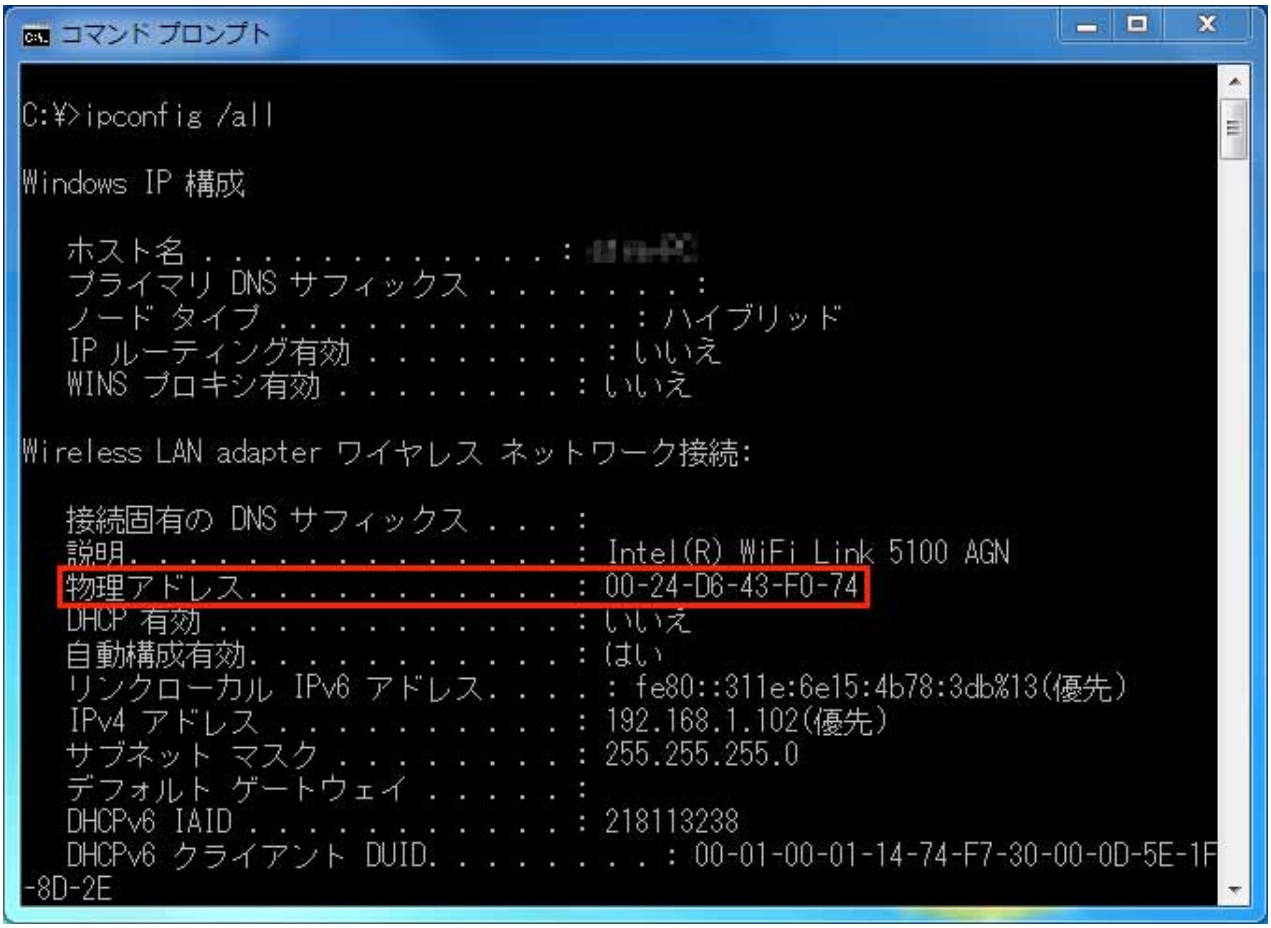
通常、無線 LAN アダプターには裏面などに MAC アドレスが記載されています。下記にコレガ CG-WL USB300AGN の例を示します。

コンピューターを使って MAC アドレスを調べる方法

無線 LAN 機能を搭載したコンピューター、または無線 LAN アダプターを装着したコンピューターの MAC

アドレスは「ipconfig」コマンドで調べることができます。

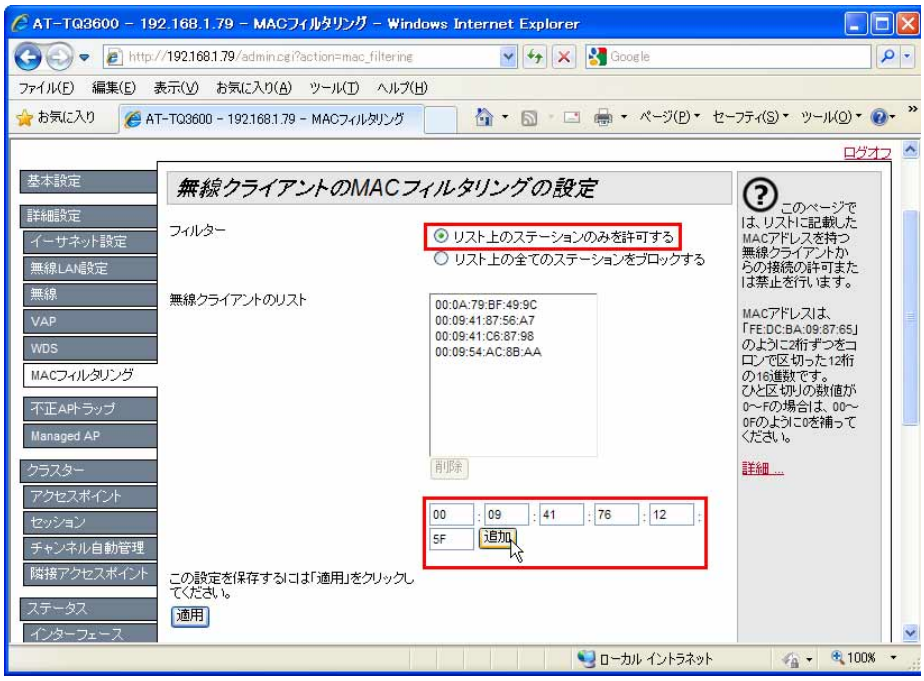
1. 無線 LAN 機能を持つコンピューターでコマンドプロンプトを開きます。
2. 「ipconfig /all」と打ち込み、「ワイヤレス ネットワーク接続」の物理アドレス（MAC アドレス）を調べます。



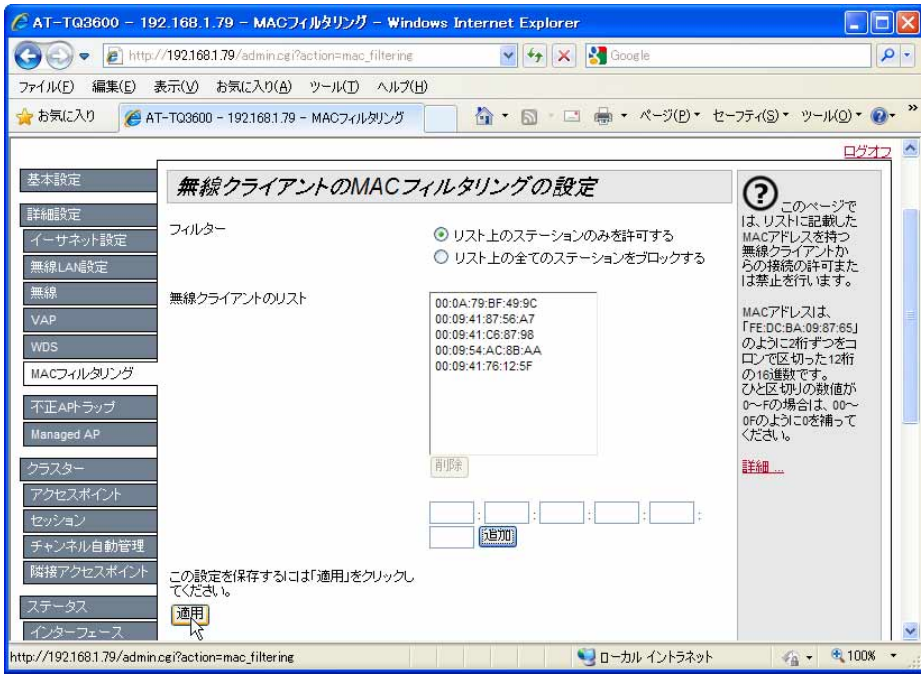
MAC アドレスを登録する

1. 先生用ネットワークから本製品の設定画面にアクセスします。
2. 「詳細設定」/「MAC フィルタリング」画面を開きます。
3. 「リスト上のステーションのみを許可する」を選択します。
4. 調べておいた MAC アドレスを入力し、「追加」をクリックします。MAC アドレスは大文字／小文字どちらで入力してもかまいません。また、「Teacher」「Student」の区別もありません。

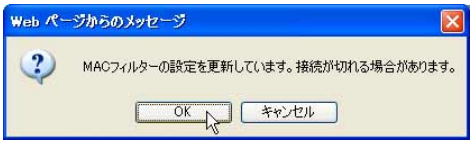
✎ 「追加」ボタンのクリックではセッションのタイマーが更新されません。たくさんのリストを追加するときは、「セッションタイムアウト」が満了する前に「適用」ボタンをクリックしてください。「セッションタイムアウト」は、「オプション設定」/「HTTP ／ HTTPS」画面で変更できます。



5. 「追加」ボタンをクリックすると、登録された MAC アドレスが「無線クライアントのリスト」に表示されます。必要な数だけ MAC アドレスを追加登録し、最後に「適用」ボタンをクリックします。

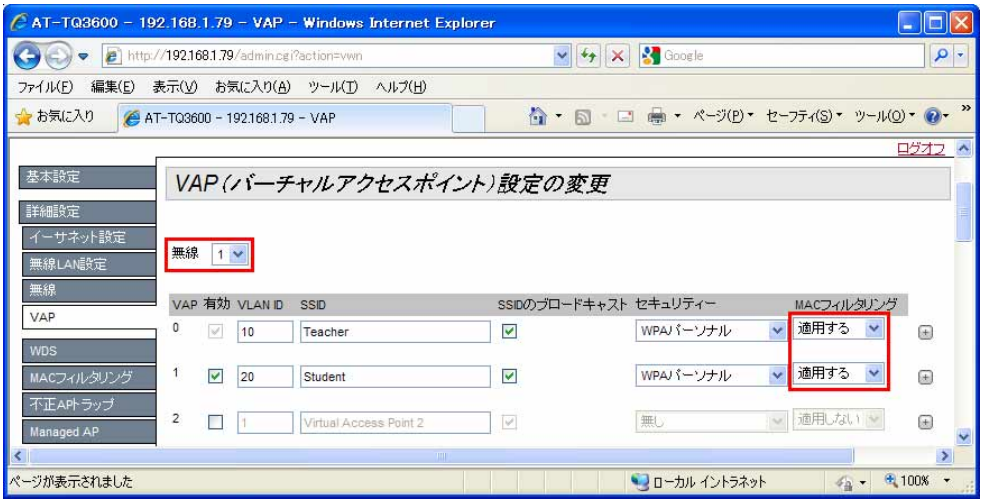


6. 「OK」をクリックします。

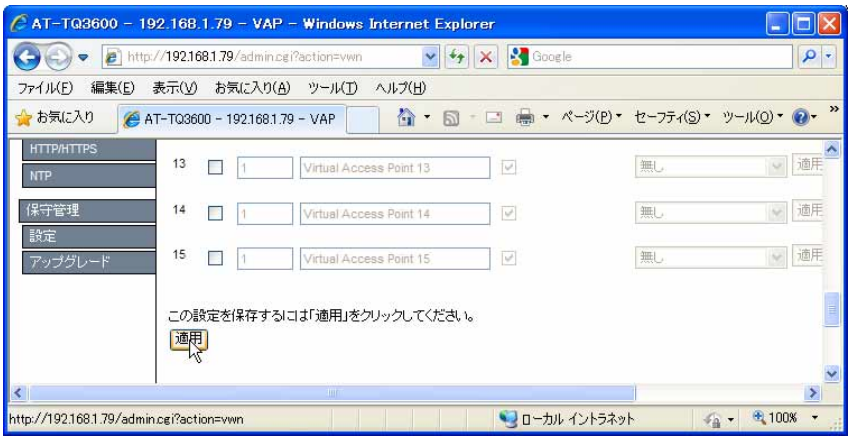


MAC アドレスフィルターを VAP に適用する

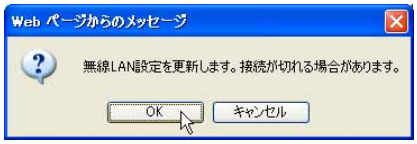
1. 「詳細設定」/「VAP」画面を開きます。
2. 「無線」で「1」（2.4GHz 帯）を選択します。
3. 「VAP0」「VAP1」の「MAC フィルタリング」を「適用する」にします。



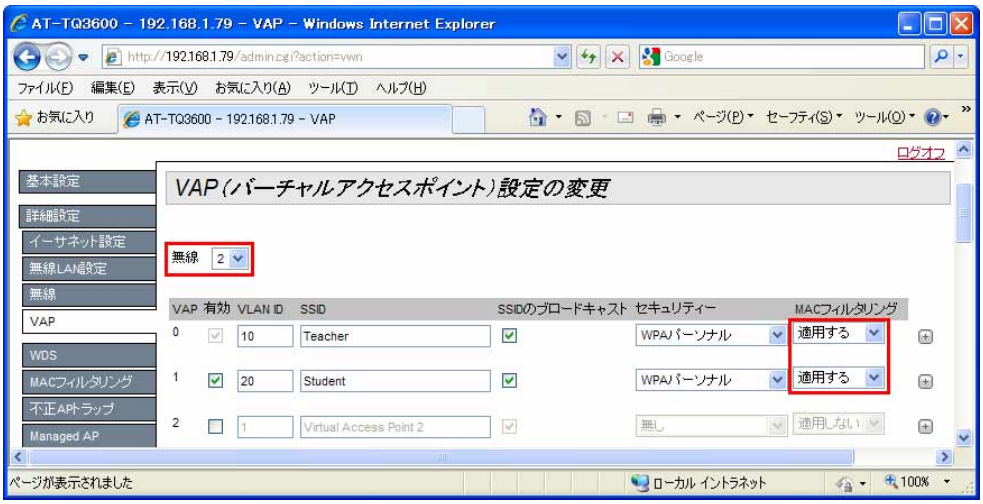
4. 「適用」ボタンをクリックしてください。



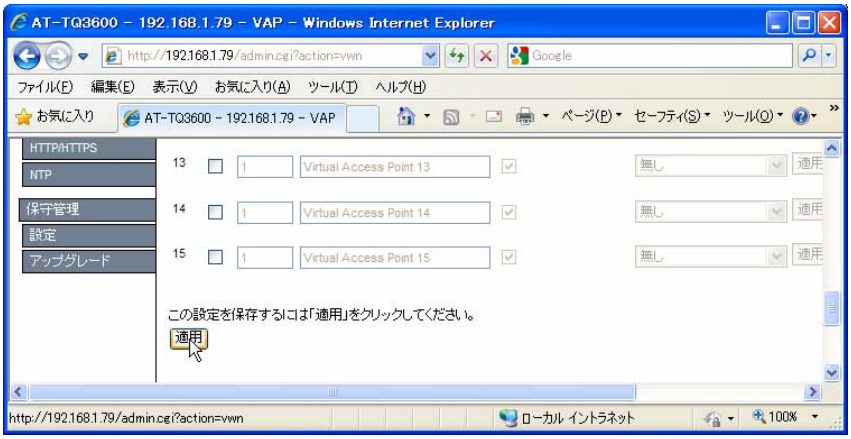
5. 「OK」ボタンをクリックしてください。



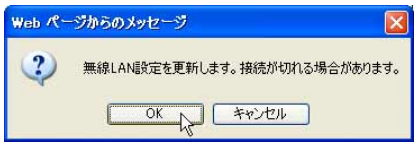
6. 「無線」で「2」（5GHz 帯）を選択します。
7. 「VAP0」「VAP1」の「MAC フィルタリング」を「適用する」にします。



8. 「適用」ボタンをクリックしてください。



9. 「OK」ボタンをクリックしてください。

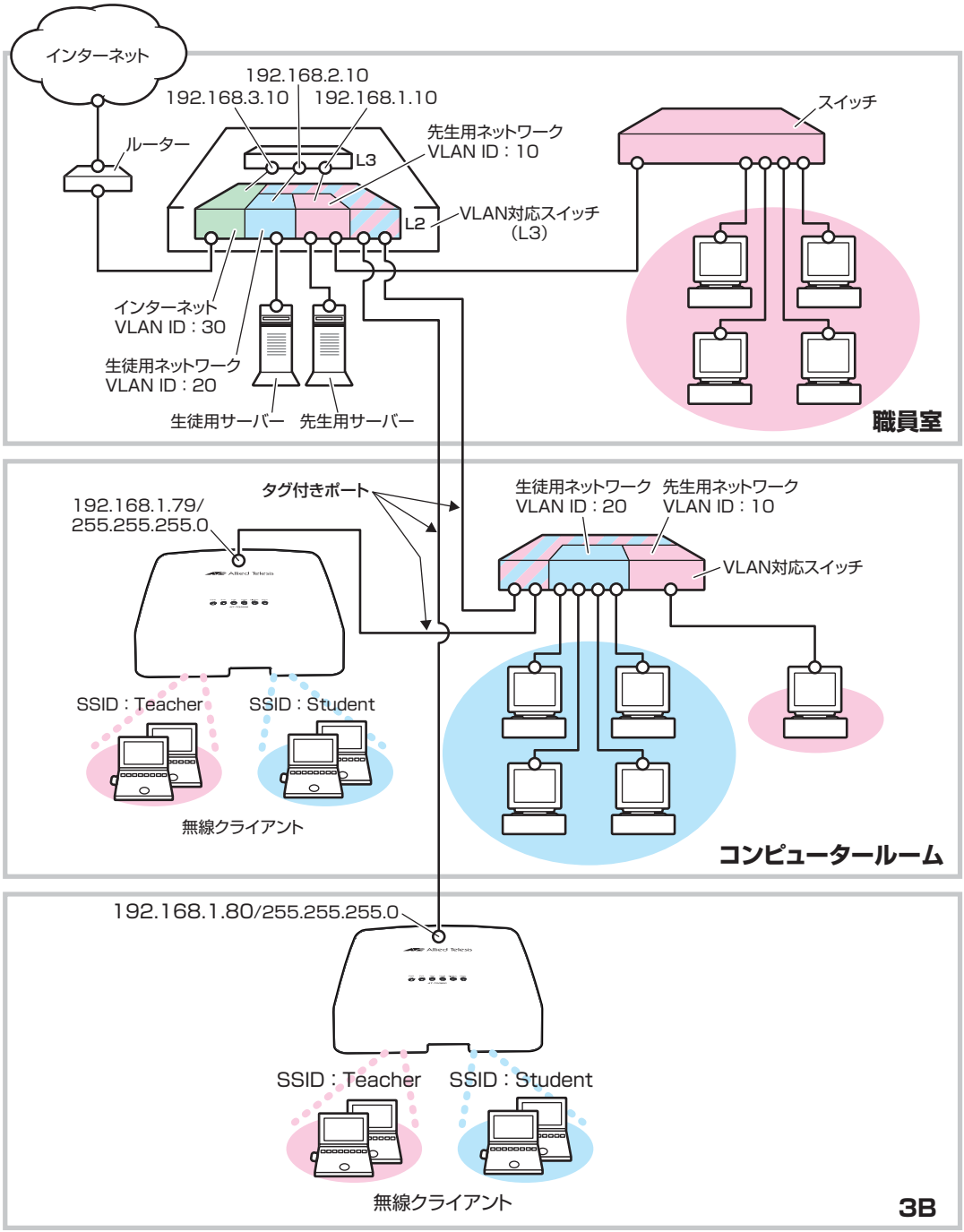


10. 登録した MAC アドレス以外から接続できないことを確認してください。

4 クラスター機能を使ってアクセスポイントを増設する

コンピュータールームに設置した無線 LAN ネットワーク、これを一般教室にも拡張します。同じ設定をすべての本製品に実施すれば良いのですが、当然手間がかかります。また、セキュリティー設定や MAC アドレスフィルタリングの設定を間違えてしまったり、一部の設定を忘れたりすると、正常に接続できないばかりか、セキュリティーホールとなってしまいます。本製品に搭載されている「クラスター」機能を使うと、設定やセキュリティー管理の手間を省き、設定忘れなどを防ぐことができます。
コンピュータールームの本製品の設定を、3B 教室に増設した本製品に引き継ぐ例を示します。ここでは、下記の構成を仮定します。おおよその作業の流れは、次のとおりです。
まず、コンピュータールームの本製品のクラスター機能を有効にします。
続いて、増設する本製品のクラスター機能を有効にします。これで必要な設定のかなりの部分がコンピュータールームの本製品と同一になります（同期します）。後は、同一にならない部分を設定します。

✎ クラスターを設定しておくと、設定の変更が自動的に全アクセスポイントに適用されます。設定間違いや、設定忘れの防止に有効です。また、管理の手間も省けます。

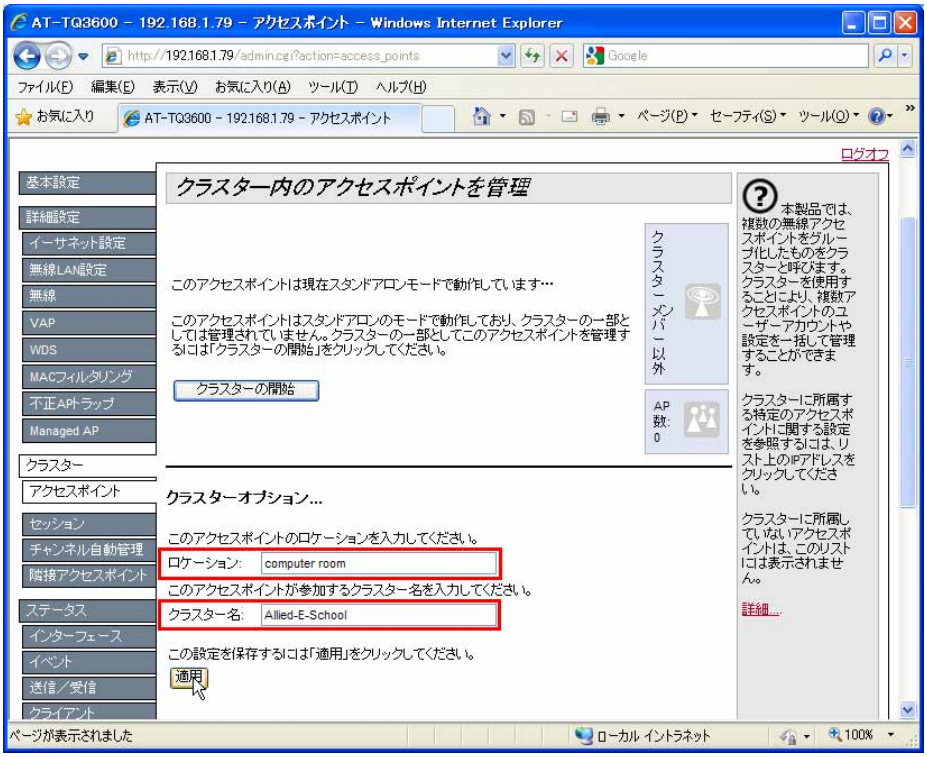


コンピュータールームの本製品のクラスターを有効にする

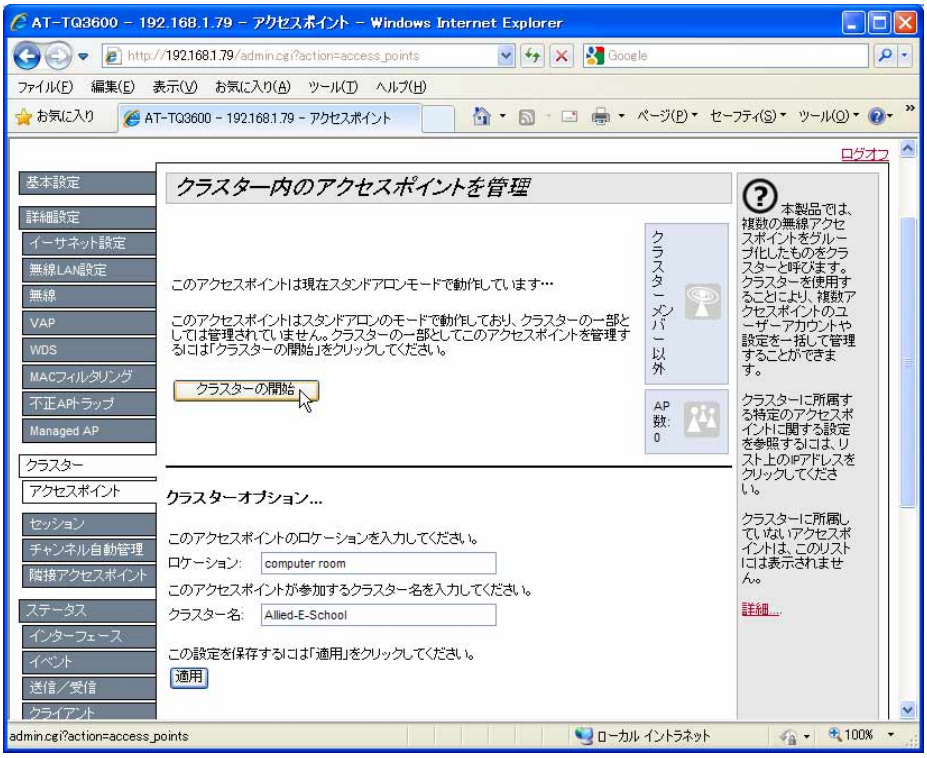
1. 先生用ネットワークのコンピューターから本製品の設定画面にアクセスします。
2. 「クラスター」/「アクセスポイント」画面を開きます。
3. 「ロケーション」に設置場所の情報として、分かりやすい名前を入力します。例では「computer room」とします。

✎ 「ロケーション」は、「基本設定」画面の「設置場所」とは別のものです。

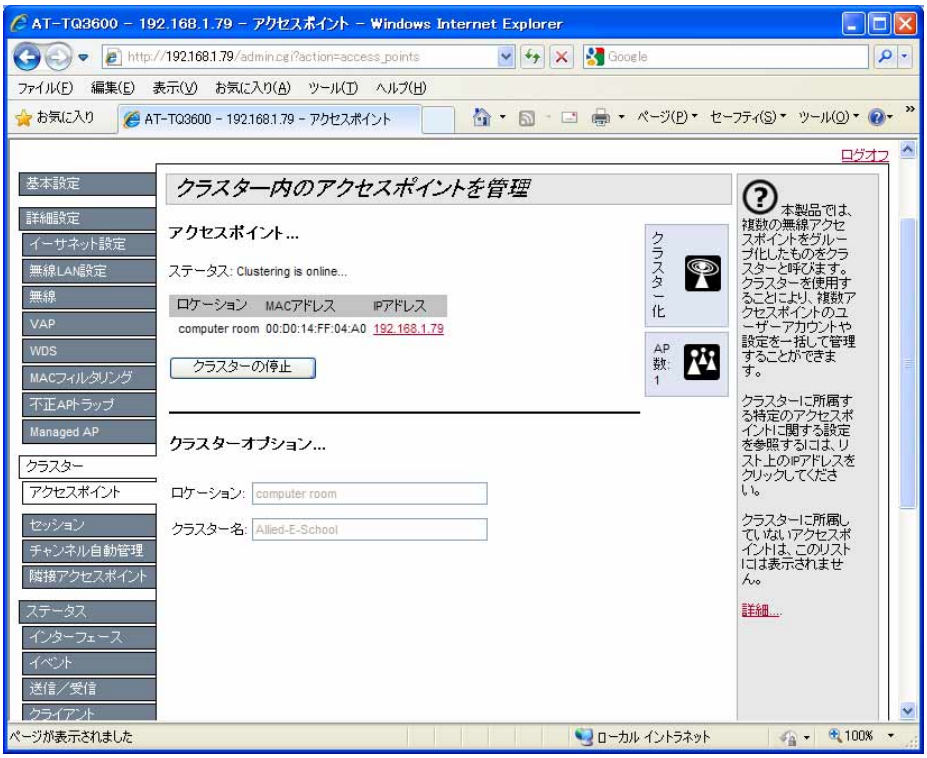
4. 「クラスター名」にクラスターの名前を設定します。例では「Allied-E-School」とします。クラスター名の同じ本製品が同一グループとなり、設定が同期します。
5. 「適用」ボタンをクリックします。



6. 「クラスターの開始」をクリックします。



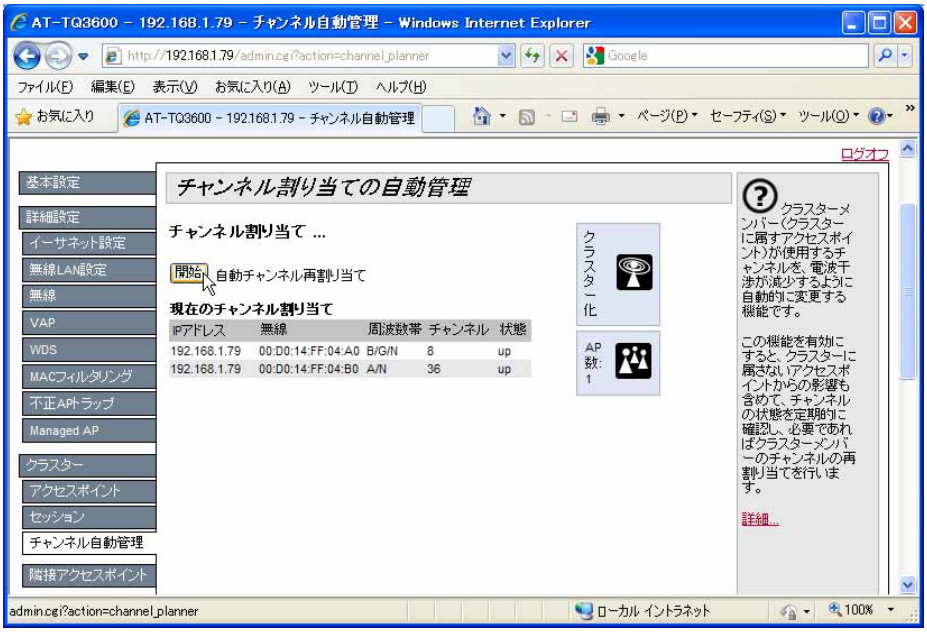
7. クラスターが開始されました。



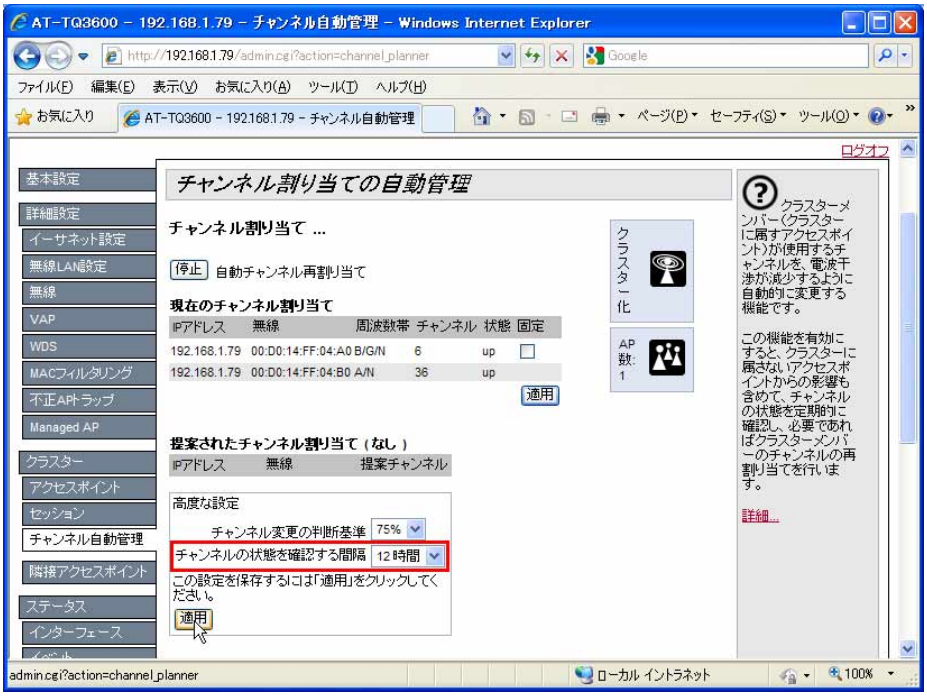
8. 「クラスター」/「チャンネル自動管理」画面を開きます。

9. 「開始」ボタンをクリックします。

✎ 「チャンネル」はこの機能によって管理されるようになるため、「チャンネル」が「Auto」に設定されていた場合は、この機能によって選択されたチャンネル番号に変わります。



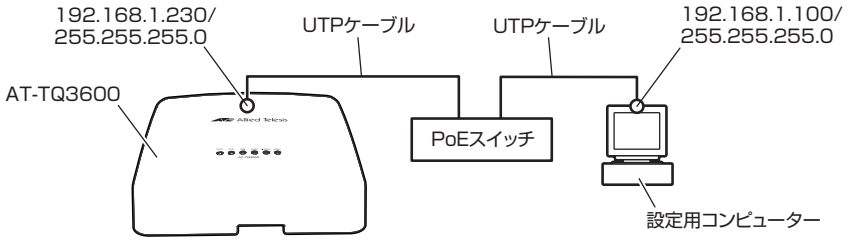
10. 「チャンネルの状態を確認する間隔」を「12 時間」に設定し「適用」をクリックします。



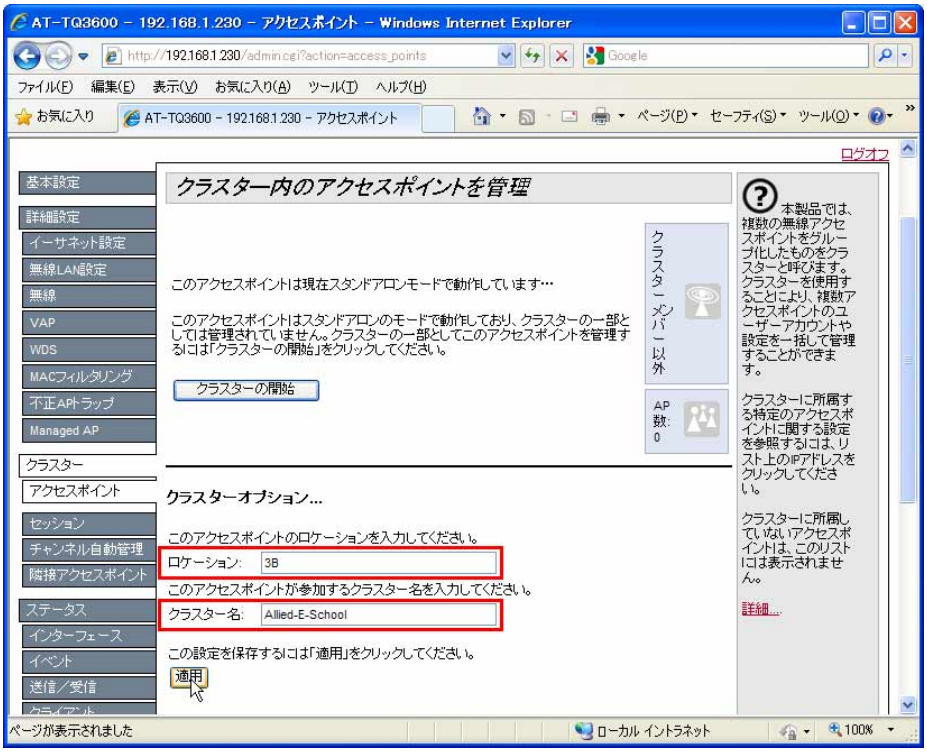
増設する本製品のクラスターを有効にする

一般教室に設置する本製品の設定を行います。必要な設定項目は、「クラスターの有効化」と「イーサネット設定」です。まずは設定用コンピューターを用意して本製品に接続し、クラスターの設定を行います。

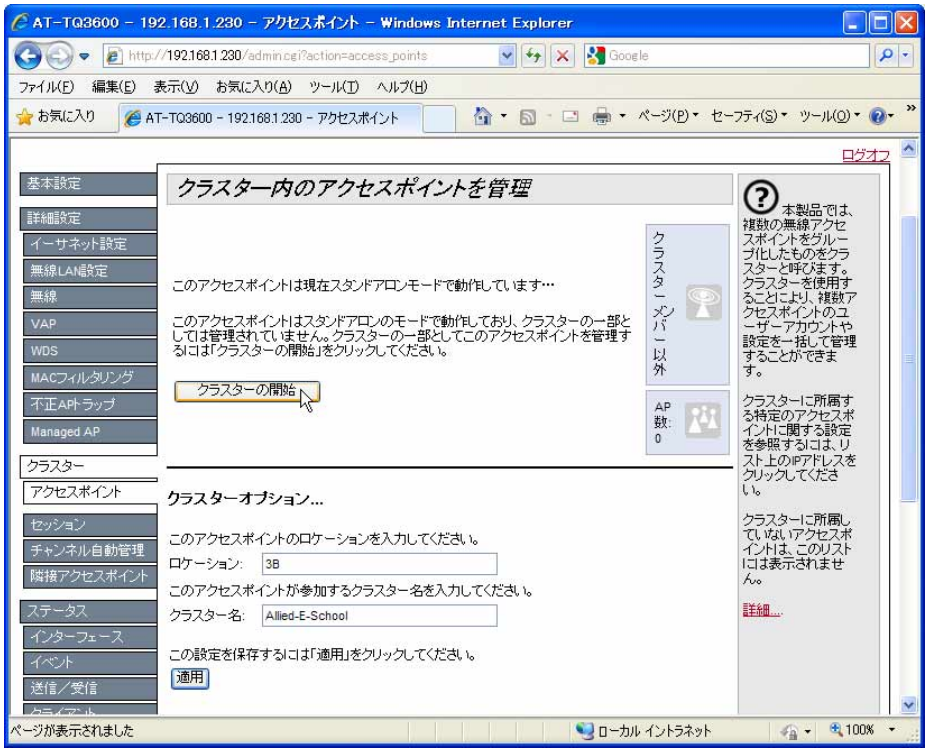
1. 本製品と設定用コンピューターを UTP ケーブルで接続します。



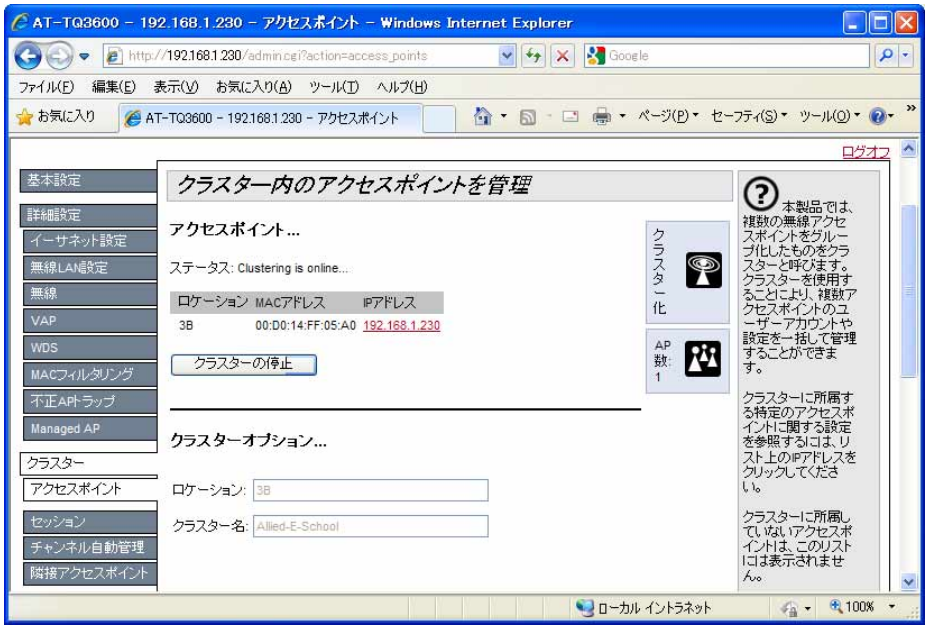
2. Internet Explorer を使用して「192.168.1.230」にアクセスします。
3. User Name「manager」、Password「friend」でログインします。
4. 「基本設定」画面が開きます。
5. 「クラスター」/「アクセスポイント」画面を開きます。
6. 「ロケーション」に設置場所の情報を入力します。例では「3B」とします。
7. 「クラスター名」にクラスターの名前を設定します。コンピュータールームと同じ「Allied-E-School」を入力します。
8. 「適用」ボタンをクリックします。



9. 「クラスターの開始」をクリックします。

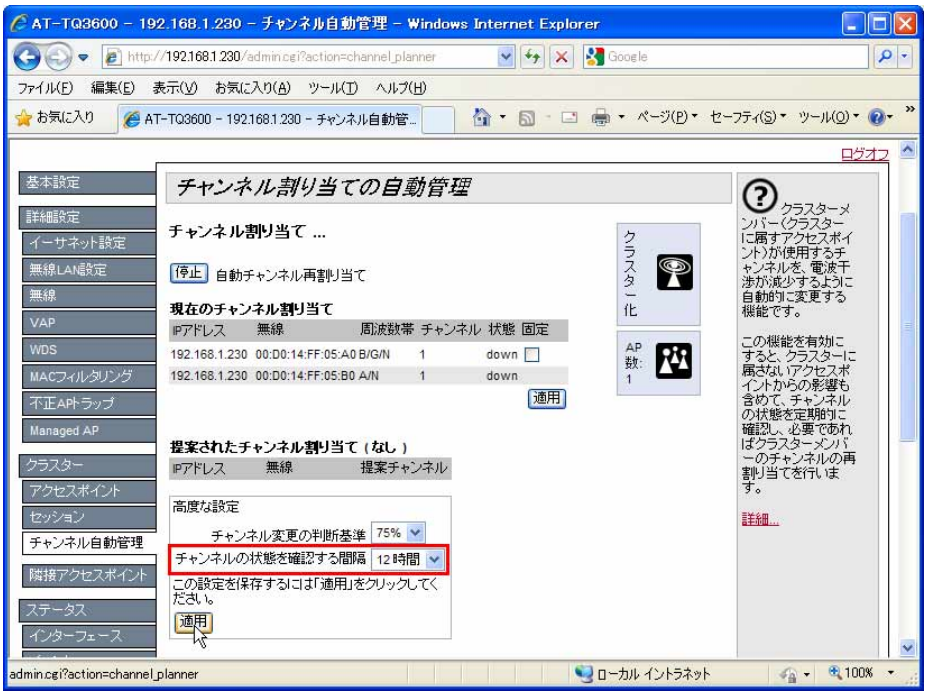


10. クラスターが開始されました。



11. 「クラスター」/「チャンネル自動管理」画面を開きます。
12. 「開始」ボタンをクリックします。

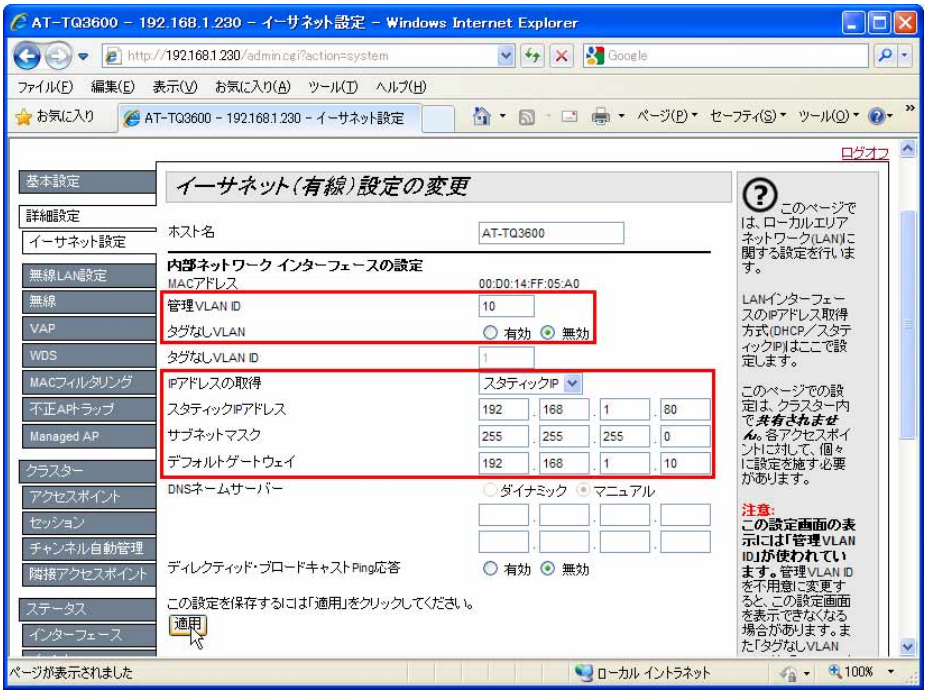
13. 「チャンネルの状態を確認する間隔」を「12 時間」に設定し「適用」をクリックします。



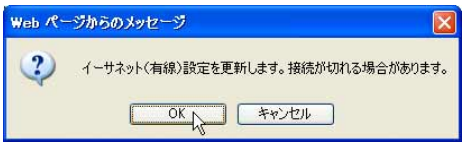
増設する本製品のイーサネット設定をする

クラスター設定に引き続き、イーサネット設定を行います。イーサネット設定は同期しないので、設置する本製品それぞれに設定する必要があります。

1. 「詳細設定」/「イーサネット設定」画面を開きます。
2. 「IP アドレスの取得」を「スタティック IP」にします。「スタティック IP アドレス」を他の機器と同じにならないように設定します。「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」を正しく入力します。
3. 「管理 VLAN ID」に「10」を入力し、「タグなし VLAN」を「無効」にします。これにより、先生用ネットワークから設定画面にアクセスできるようになります。
4. 「適用」ボタンをクリックし、設定を保存します。



5. 「OK」ボタンをクリックしてください。設定画面との接続が切断されます。30 秒そのまま待った後、本製品の電源を切ります。



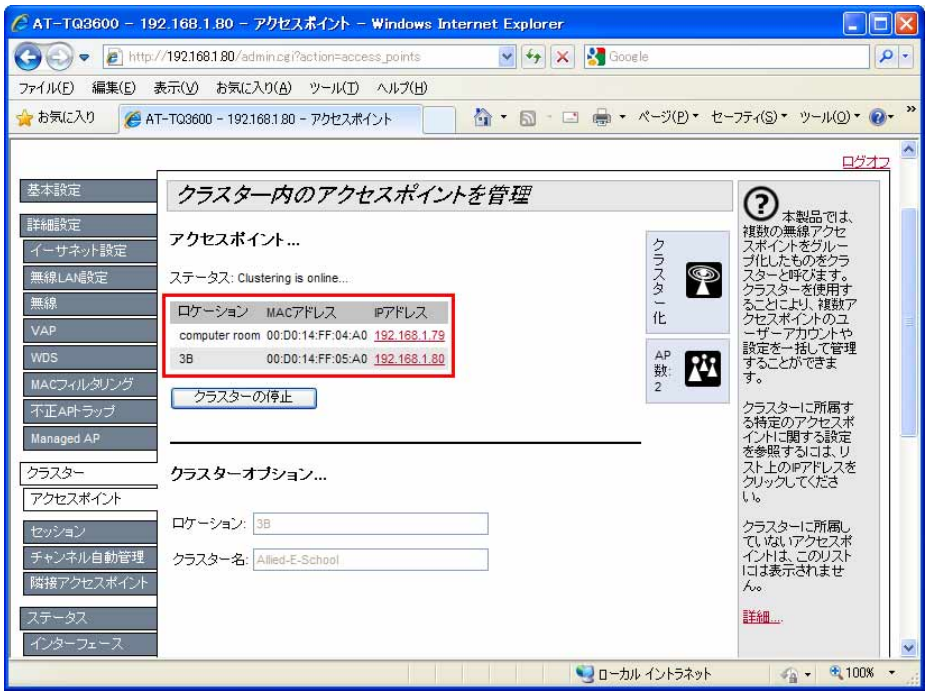
6. 職員室の VLAN 対応スイッチのタグつきポートに接続して、実際の設置場所に設置し、本製品の電源をオンにします。

✎ この時点で、増設した本製品の設定が、コンピュータールームの本製品の設定に同期します。

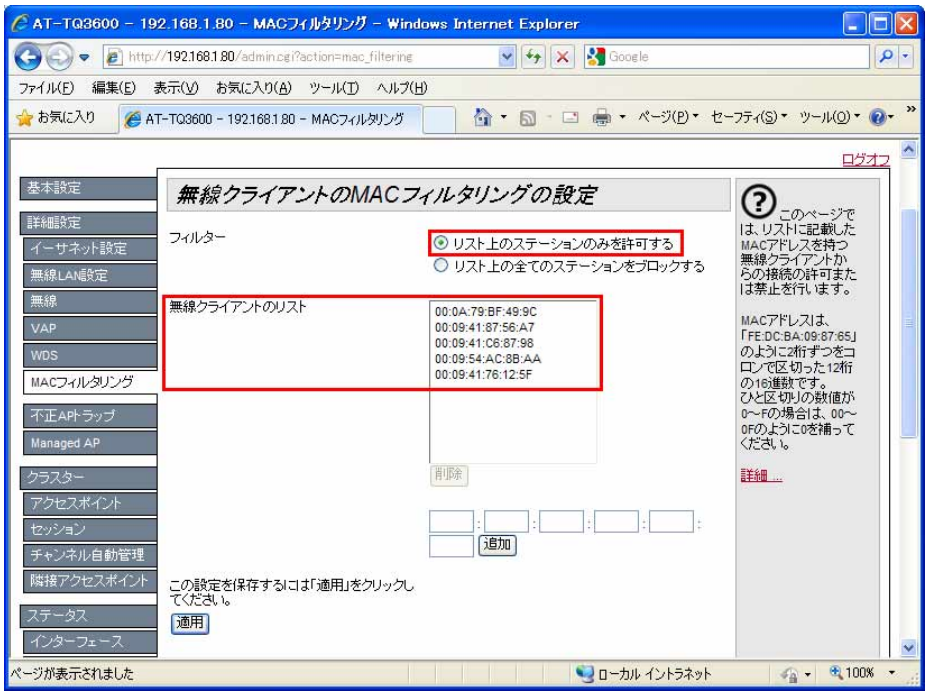
✎ IP アドレスを変更すると、ナビゲーションと言語が「dropdown menu」と「English」に戻ります。変更後の IP アドレスでナビゲーションと言語を再設定してください。詳しくは、「設定画面へのアクセス」の「ナビゲーションと言語」を参照してください。

クラスターの登録を確認する

1. 先生用ネットワークに接続されている有線のコンピューター、またはSSID「Teacher」の無線クライアントを使って、本製品の設定画面に接続します。設定画面へのアクセスに使用する管理者ユーザー名とパスワードは、コンピュータールームの本製品に設定したものとなります。
2. 「クラスター」/「アクセスポイント」画面を開きます。
3. ステータス表に2台のアクセスポイントが登録されていることを確認します。



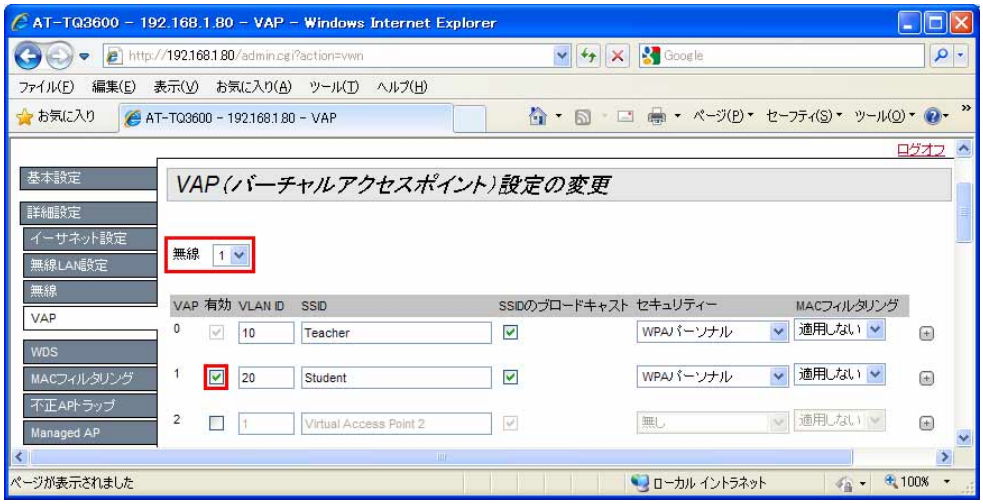
4. 「詳細設定」/「MACフィルタリング」画面を開くと、コンピュータールームで設定したMACアドレスのリストが登録されています。



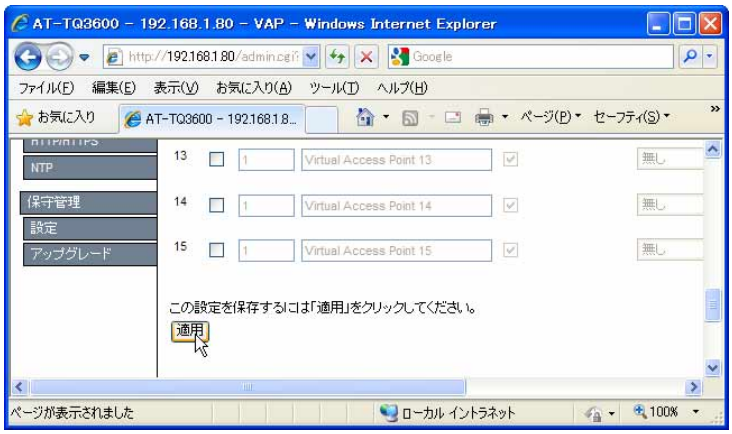
増設する本製品の SSID「Student」を有効にする

1. 「詳細設定」/「VAP」画面を開きます。
2. 「無線」で「1」（2.4GHz 帯）を選択します。
3. 「VAP1」の「有効」にチェックを入れます。

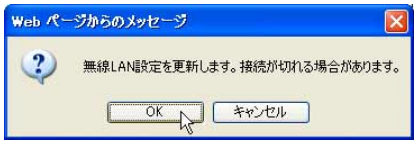
✎ クラスターを有効にしても、VAP の有効／無効は同期しません。



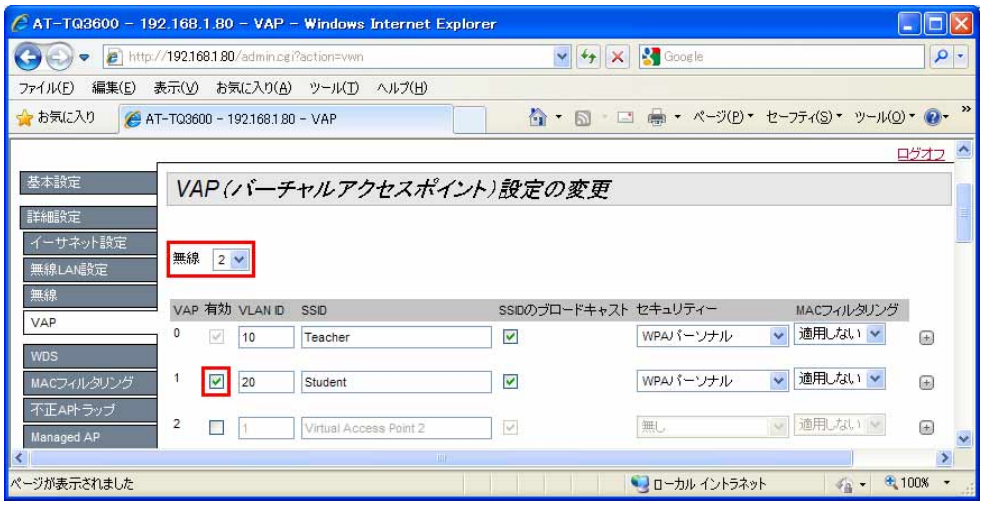
4. 「適用」ボタンをクリックします。



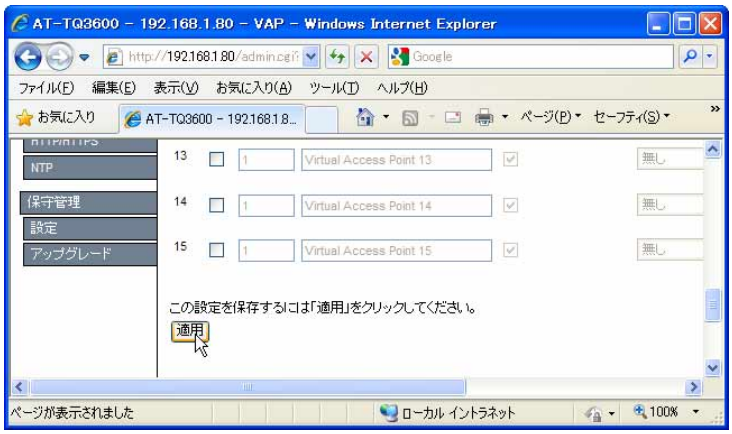
5. 「OK」ボタンをクリックしてください。



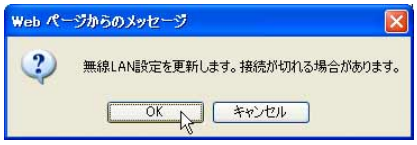
6. 「無線」で「2」（5GHz 帯）を選択します。
7. 「VAP1」の「有効」にチェックを入れます。



8. 「適用」ボタンをクリックします。



9. 「OK」ボタンをクリックしてください。



増設した本製品を無線クライアントで確認する

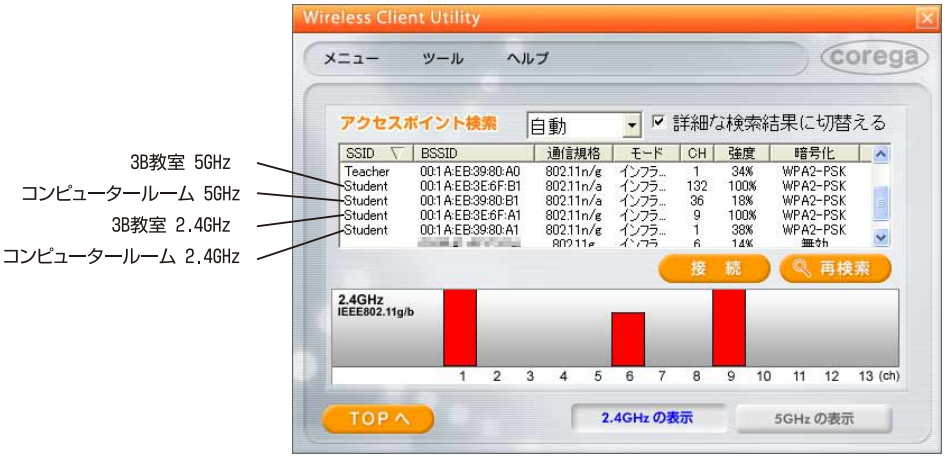
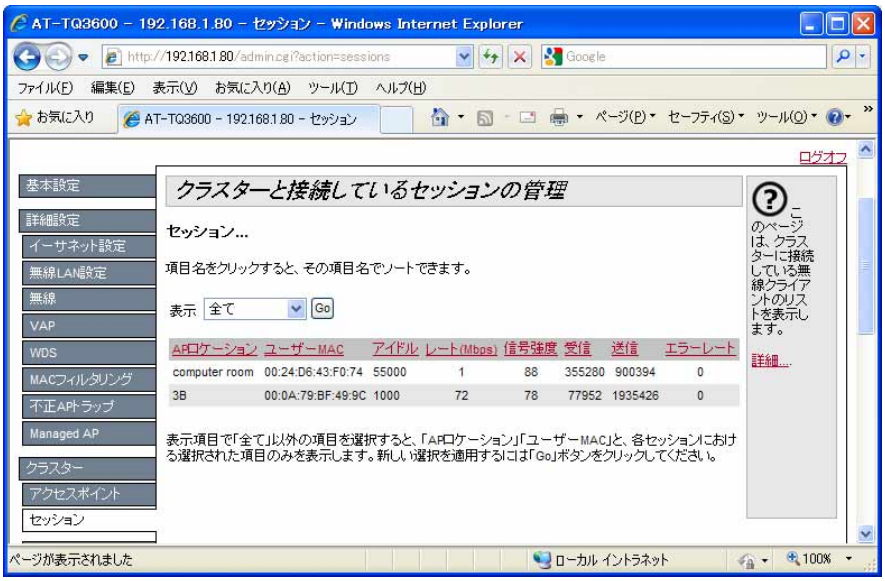
「2 VAP と VLAN を使ってネットワークを分ける」で設定した先生用または生徒用の無線クライアント（コンピューター）を 3B 教室にもってくれば、そのまま 3B 教室に増設した本製品に接続することができます。

1. 3B 教室で本製品を検索してみましょう。3B 教室で無線クライアント（コンピューター）を起動します。
2. 下記は、Windows 7 の例です。2 つの SSID「Teacher」「Student」が表示されており「Teacher」に接続しています。

下記は、コレガ CG-WL USB300AGN の例です。同一の SSID「Student」が 4 つ表示されています。

「Teacher」も同様です。これは弱いながらもコンピュータールームの本製品の電波が、3B 教室にも届いているためです。

✎ ご使用のコンピューターや無線 LAN アダプターによっては、これらが区別されず「Student」「Teacher」がひとつずつ表示されるものもあります。



3. 「クラスター」/「セッション」画面の MAC アドレスで無線クライアントが、クラスターのどのアクセスポイントに接続しているか確認することができます。